

月刊

もぐら通信



Mole Communication Monthly Magazine

2022年7月1日 第116号 第三版

www.abekobosplace.blogspot.jp

あなたへ：
迷う事のない迷路を通して
あなただけの番地に届きます

指さされたところに、ポプラの林が、四角く箱のようにみえた。近いようにも見えるが、案外遠いようにも思われる。さっきから見えている二台の自転車が、もう近づいてもいいはずなのに、まだ同じところにいるように見えるのも、この道があまりにまっすぐすぎて、距離感が狂ってしまうからなのだろう。

(『鏡と呼子』全集第6巻275ページ上段)



安部公房の広場 | | www.abekobosplace.blogspot.jp



『S・カルマ氏の犯罪』の最後に登場する
非ユークリッド空間を映写する映写機

目次

- 1 目次…page 2
- 2 記録&ニュース&掲示板…page 3
- 3 巻頭詩（4）：フェルナンデス：石原吉郎…page 17
- 4 全集未収録作品：シナリオ『億萬長者』生原稿 分載（2/4）映画評論1954.8月号：安部公房他…page 18
- 5 『周辺飛行』論（28）：3。『周辺飛行』について（21）：鰐魚のエピソード——周辺飛行24：岩田英哉…page 34
- 6 『砂漠の思想』を読む（3）：モンローの逆説：岩田英哉…page 62
- 7 ネット・メディア論（8）：6。二階層戦争論とメディア論の関係：休筆御免：岩田英哉…page 71
- 9 縄文紀元論：Topologyで日本人を読み解く（7）：Intermezzo 2：海風之大刀（アマナギ・ノ・タチ）は一体どんな姿をしてゐるのか：岩田英哉…page 72
- 10 Topologyで日本の文化を解説する「内なる境界」シリーズ（10）：扇：待て次号…page 80
- 11 編集後記…page 83

- ・連載物・単発物次回以降予定一覧…page 81
- ・編集方針…page 84

PDFの検索フィールドにページ数を入力して検索すると、恰もスバル運動具店で買ったジャンプ・シューズを履いたかのように、あなたは『密会』の主人公となって、そのページにジャンプします。そこであなたが迷い込んで見るのはカーニヴァルの前夜祭。

ニュース&記録&掲示板

The best tweets of the month



パーラメントヤスオ@parliamentyasuo・19時間

安部公房も言っています。脱ぎかけの身体はすっぽんぽんよりも剥き出しなんです。

ELIO@hypsub・5月30日

もう筆置いて安部公房読みたい



片隅の雲雀@棺桶で壁画してる鳥頭@shu0212_1305・6月2日

ああああああああああ

最近純文学が足りてないiiiiiiii!!!!!!!

読みたいヾ。ÔДÔ)シバンバン!!

安部公房を読むか梶井基次郎を読むか太宰治を読むか……(手近にある本棚を見ながら)

イワハシ@iwahashiorigo・5月18日

なんか、ちょっと安部公房が気になって、新潮文庫で10冊くらい持ってたはずと思って本棚整理に入ったんだけど、ねえのな、安部公房。どこ行っちゃったんだ安部公房。おかしいな安部公房

今月の壁

ken@ken70121871・5月29日

『壁』 #安部公房

【嘲笑するカルマ】

ある朝、突然自分の名前を喪失する男

名刺。服。マネキンなど

意思を持って反逆してくる

《死んだ有機物から生きている無機物へ》

存在権を失った人間の空虚

やがて自身も壁と同一化する

人間の無意識を不条理に

寓話的に描く奇作

凄い発想の小説です！

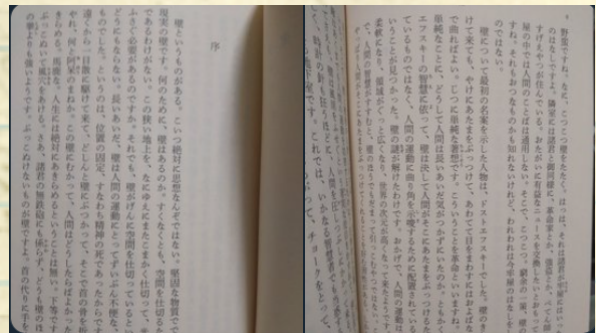


めとろ@metoroiaka・13時間

安部公房の『壁』は東大生が読んでる！みたいな謳い文句が気になって読んだことがあるけど、未だによく分からない感じだ……強いて言うなら”夢の中”みたいな感じとしか…何を伝えようとしているのかじゃなかったのかな、でもなんか、その夢みたいな感じ、アリスみたいな感じが、印象に強く残ってる

ku@namu3po・9時間

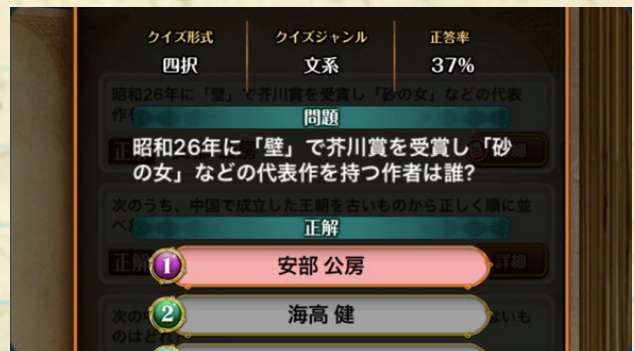
安部公房の『壁』の序文にも。



問題回収用@difficult_Quiz・5月29日

こんなもありましたね

小林多喜二を答える3色問題もありますが、この選択肢なら安部公房一択です



triplealpha@triplealpha0・5月27日

高校のころ安部公房の『壁』を読み、「こんな面白い作家がいたとは！」と思い、続いて読んだ『砂の女』の素晴らしさにさらにテンションがあがったのだが、次に手を出した『箱男』がやや難解で、めげずに挑んだ『燃えつきた地図』が全くわからず第一次接触が終わってしまったのは、今思うともったいない

わぐパンダの顔@wag_subaccount・5月29日

日本文学でも何故か例外的に安部公房だけは好き。とはいえ、この人は海外でも人気のある作家だからか。そんなわけで『壁 S・カルマ氏の犯罪』は、自分が唯一読んだことのある芥川賞受賞作品。

芥川賞全受賞作筋書き@akutagawa_syou・5月28日

ある朝、突然自分の名前を喪失してしまった男。彼の眼には、現実が奇怪な不条理の塊とうつる。他人との接触に支障を来し、人形やラクダに奇妙な愛情を抱く。そして……。独特の寓意とユーモアで、孤独な人間の実存的体験を描き、その底に価値逆転の方向を探った野心作。芥川賞受賞作『壁』安部公房

今月の方舟さくら丸

風来坊@huraibou・5月28日

安部公房「方舟さくら丸」 | ユコタカ #note #読書感想文

<https://note.com/songcycle/n/nb76241a91eb5>



安部公房「方舟さくら丸」 | ユコタカ | note

コロナの時代に読む安部公房といえばこれでしょう。建築用資材の地下採石場の洞窟に巨大な核シェルター設備...

[note.com](https://note.com/songcycle/n/nb76241a91eb5)

今月のけものたちは故郷をめざす

かまわぬ青りんご@kamawanujp・5月29日

いま時期、世の中では、カミュ「ペスト」とかハマったが、安部公房「砂の女」「方舟さくら丸」とかハマるかもしれない。最高傑作は「けものたちは故郷をめざす」と信じてますが。



今月のカンガルー・ノート

寄野とぼり (大脇一輝) @wacky0915・6月1日

安部公房の「カンガルー・ノート」は未読でした。先生がピンク・フロイドのファンだということは、確か全集の中の語録の中で読んだ覚えはありましたが、作中にそれほど引用があるなら安部公房、ピンク・フロイド両方のファンとしては読まなければいけません。

https://ch.nicovideo.jp/t_hotta/blomaga/ar693855... #blomaga



夢みる機械〜安部公房、キューブリック、ピンク・フロイドの眼 (その1...
偶然、直近の記事に安部公房、ピンク・フロイド、スタンリー・キューブリックをテーマにしたものが並んだので、ここで昨年、...
ch.nicovideo.jp

35DH-1 ㊦ / HuMvN-HuEアボカド@HuMaN_HuE・5月31日

安部公房氏の遺作『カンガルー・ノート』をやっと読んだ。
朝起きたら脛にカイワレ大根が大量に生い茂ってた男が、病院の先生に治療には温泉が効くと言われ、強制的病院のベッドごと不思議な空間を滑走するメタSF(?)。入院しているベッドの上でこれを読むなんて、何か因果律を感じるなあ。



今月の超越論

古義人@cogito_kobo・5月30日

安部公房のエッセイ、自分の問題提起の後、「いや、それは既に始まっているのだ。」と書かれがち。

今月の無名詩集

madeleine@storyforf・3月21日

さながら星の運命の様に
君のリンゴも名前を忘れただらう
完結したものは名前を持たない
再び現実に復帰した
夢想の上を行く蒼い透明だ
——安部公房「リンゴの実」より

madeleine@storyforf・5月31日

僕も亦その途を行けるだらうか
球体への涯しない内部の途を
窮め得ぬその面（も）の影にさながら
路標（しるべ）なき存在を泣かぬだらうか
君が差出した一つの結実を
今僕は唯明るい夢の様に怖れる
涙も亦一つの球体ではなかったか
——安部公房「リンゴの実」より

今月の高所恐怖症の男が月に気づいて落ちていく話

銀河なめろう999@SW6bqQ5rnIFf6oN・5月30日

安部公房の短編小説で高所恐怖症の男が月に気づいて落ちていく話がすごく好きだったんだけどググってもわからない…あの作品のタイトルはなんやったんやろか？

今月の飢餓同盟

なすび@yuru1998・6月1日

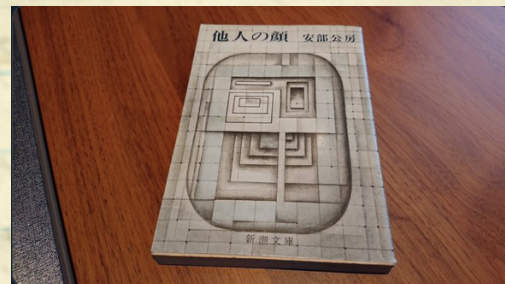
安部公房もまとめて読み直したいなあ。日本文学では傍系ではあるし、そのパーソナリティーからも変わった作家みたいな扱いをされるけど、実際にはむしろ「芸が勝っている」とケチをつけてしまいたいくらい小説としては王道の技巧派なんだよね。『飢餓同盟』が好き。

今月の他人の顔

Monoco@tkn31094353・6月1日

安部公房「他人の顔」文庫本がようやく到着目が笑っている笑顔ラッキーにも昭和49年版(フォントが極少でページ数が無駄に多くなく、多少濡れても紙がベコベコにならない)でした。

昨夜は永山則夫の悲惨な生い立ちを追っていたため多少引き摺っていますが、ここは頭を切り替えて虚構に没頭したいです。



今月の砂の女

yuki@読書垢@yukibooks_cafe・4時間

『砂の女』 安部公房著

テンポの緩急が大きくて、自然と読み込んでしまった。

随所に表現の深さが滲み出ていて、もう一回読みたくなる作品。

たんじえんとということ@tangentgohan・22時間

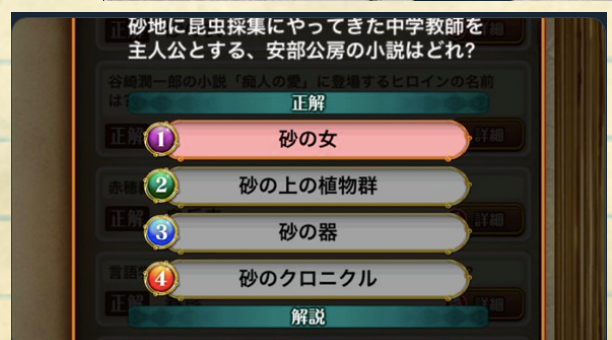
砂の女ってあれじゃん

安部公房やん

問題回収用@difficult_Quiz・5月30日

返信先: @difficult_Quizさん

いた、砂の女問題



佐藤 / 読書垢@satotosatotosa・5月30日

安定は安定を壊すのか 生活と言葉。No.7 安部公房 『砂の女』より | 佐藤 / ことばセ



佐藤 / 読書垢@satotosatotosa・5月30日

#note #読書感想文

つゆ@rrrfa_t・5月30日

安部公房の砂の女、いつ読んだか思い出せないくらい昔に読んだのに「乳房を走っている
堇色の静脈」という一文が強烈すぎてめっちゃくちゃ鮮明に覚えてる

今月の周辺飛行

巡宙艦ボンタ@bonta634・6月3日

安部公房こわ! となった

原因とみなすことで、その重み
を歴史の中に分散し、かろうじ
て現在に耐え、切り抜けていく
ための生活技術としての物語。

— 安部公房「〈物語とは〉 —

周辺飛行1」^[14]

今月の密会

kaaaaaasan@kmdmik・5月27日

おしゃれで丁寧な暮らしとやらをしていそうな男子に安部公房の密会を薦めると、大抵後
日、ドン引きされるのでおすすめです

今月の読書会：密会

三柴ゆよし@Mishiba_Y・12時間

次回課題本は安部公房『密会』に決まりました。投票&RTしてくださった方、ありがとう
ございました。8/8（土）13時頃から都内某所（状況見つつ場合によってはオンライン）
で行う予定です。参加を希望される方は三柴までDMにて連絡ください。

三柴ゆよし@Mishiba_Y・5月27日

まだ様子をうかがいつつですが、7月下旬or8月上旬あたりに第3回読書会を開催できたら
と思っています。今回は日本の小説に課題本を絞りました。この中ならどれを読みたい、
参加したいと思いませんか。アンケートにご協力ください。投票期間はやや長めに1週間設
けています。よろしくお願いします。

三柴ゆよし@Mishiba_Y・12時間

返信先: @Mishiba_Yさん

途中まで藤枝静男といい感じに競っていたんですが、ふたを開けてみたら安部公房の圧勝
でした。

今月の読書会2：砂の女

ゆるやか読書会@yuruyaka_circle・6月1日

「ゆるやか読書会」始動します！

ゆるやか読書会ではハッシュタグを利用し、Twitter上で読書会を行います。

初回は以下の二冊を課題図書とします。是非、ご参加くださいませ！

#ゆるやか読書会_安部公房_砂の女

#ゆるやか読書会_J・M・クッツェー_恥辱

第一回ゆるやか読書会 課題図書 安部公房『砂の女』 J・M・クッツェー『恥辱』 開催日時2020年6月19日(金)20時—6月20日(土)20時まで 場所 Twitter ハッシュタグにて #ゆるやか読書会_安部公房_砂の女 #ゆるやか読書会_J・M・クッツェー_恥辱	ゆるやか読書会(@yuruyaka_circle)について 「ゆるやか読書会」ではTwitterのハッシュタグを利用して、Twitter上で読書会を行います。Twitterならではの言葉を媒介とした人々のすれ違い。その偶然から生まれる可能性に期待してこの度の企画を立ち上げました。言葉の葉をそっと湖の水面に漂わせるように読む…どのような波紋が広がるのかはわからない。どこかで別の言葉の葉と出会うかもしれない。そのまま向こう岸まで流れてゆくかもしれない。しかし、それらが同じ輪のなかの出来事として、読書体験として、ゆるやかに共有されることを目指します。
参加方法 ・必ずしも課題図書を読まねば参加出来ないということはありませんが、読書会ですので事前に本を読まれることを推奨いたします。 ・課題図書は二冊ございますが、どちらか一方の読書/読書会参加でも構いません。 ・自由に本を読んで感想を吐いたり、自分の読解を紹介したり、他の方と意見や感想の交換をしてゆるやかに読書体験を共有しましょう。	注意事項 ・本から文章を引用する際は必ず出典を明らかにしてください。※是非ハッシュタグを活用してください ・自由な読解、感想ツイート、交流が可能です。交流の際は他者を「攻撃」したり「説得」したりすることを控えるようお願い致します。また、応答(返信)の強要も迷惑行為と見なし禁じます。 ・Twitterの読書会空間が半ば開かれた場所であることを意識し、いかなる理由があれ、差別的言動を控えるよう心掛けてください。

ゆるやか読書会@yuruyaka_circle・6月1日

「ゆるやか読書会」始動します！

ゆるやか読書会ではハッシュタグを利用し、Twitter上で読書会を行います。

初回は以下の二冊を課題図書とします。是非、ご参加くださいませ！

#ゆるやか読書会_安部公房_砂の女

#ゆるやか読書会_J・M・クッツェー_恥辱

ゆるやか読書会@yuruyaka_circle・6月1日

参考までに

安部公房『砂の女』新潮文庫

J・M・クッツェー『恥辱』鴻巣友季子訳

早川書房



TAP読書会

ホッタタカシ@t_hotta・6月1日

TAPの「安部公房読書会」も、いずれオンライン特別版というのをやってもいいかもね。

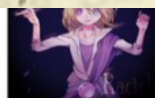
今月の魔法のチョーク

maruido@依頼ぼしゅ@maruido・5月30日

インプレ増えてる！有難うございます。

情緒不安定さを感じる人が多いみたいですね。ジャケット班からのメッセージとしては、安部公房「魔法のチョーク」を読んでみてください。『壁』という短編集がきっと図書館などにありまして、そこに収録されています。

希望と破滅が雪崩れてくるような話です。



譜面作者	Jaldabaath	イラストレーター	maruido
レベル	[LT] Lv7 / [CH] Lv13 / [EX] Lv17 / [IN] Lv19		
コメント	初参加です、よろしくお願いします。		

名前	コメント	総合点 (300点満点)	楽曲点	ジャケット 点	投稿者用
あつ兄	かっこいい曲にオシャレなジャケットがとていいです 譜面はEX詐称気味、INも押しにくい配置が多い気が	未公表	未公表	未公表	削除

今月の榎本武揚

「ふう」喰う？@boooootouch・5月30日

ようやく安部公房「榎本武揚」我慢していた甲斐があつて非常に格安で入手できた。何か装丁が変わってないか？と思ったが奥付をみるとなんと10年程前に二度目の改版をされたようだ。前のほうが好みだったな。実在する榎本武揚だが安部公房の事だ只なぞった歴史小説にする筈がない。北海道を踏む榎本。



今月の東欧に行く

珈琲と本と音楽 半空@nakasora2012・5月30日

「洋酒天国2」を読んでいると、安部公房がスロバキアに行ったときに飲んだ酒のエピソードを寄稿していた。飲みたくなって取り寄せたので、その文章を肴にどうぞ。メニューに追加しています



今月の箱男

Esc@escapefromuniv・5月31日

安部公房の箱男を読んだ

ガルシアの胴体@okamidori0425・6月2日

「夕方までに帰るよ」の表紙、安部公房の「箱男」だ。



青のハート桜Raven-METAL青のハート桜@Raven_takahashi・6月2日

結愛ちゃんのイメージした電車男って、もしかして江戸川乱歩の人間椅子とか安部公房とかフランツ・カフカみたいなお話では(;´Д`)

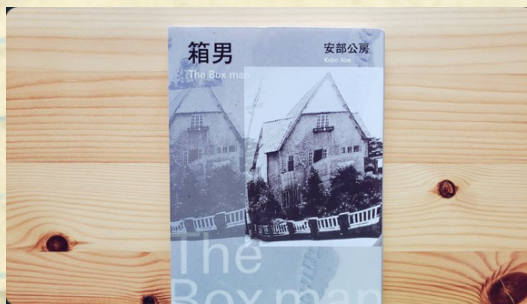
#FRESHマンデー #野崎結愛



マメ緑色の本@mame3184・5月26日

『箱男』#読了

初めて安部公房の小説を読んだのですが、直ぐに理解しました。彼は変態です。“覗く”という行為には優越感や安心感だけでなく場合によっては性的興奮をも伴うようです。他人に観察されることなく他人を観察したいという欲求、精神的に“箱男”でありたいとの欲求には、少し共感します。



社会学・哲学・文学等私的名言bot@siteki_meigen・8時間

いま、こうして眺めまわしている箱の内側……自分の容積よりもわずかに広い、立方体……汗と溜息でなめされた、ダンボールの壁……一面に小さく書き込まれた、ボールペンの落書き……裏返しに彫られた入れ墨……見栄えのしない経歴の透かし彫り…… — 安部公房『箱男』

都留 慎治@turusiki・21時間

今日のつるちゃんのおすすめ本は安部公房の「箱男」です！

我が社は箱屋なんで興味津々の本でした！段ボールは沢山あるので明日から箱男になるかも 笑笑 #安部公房 #箱男 #ジャンボ都留 #パッケージプラザ都留 #都留紙器工業 #つるちゃんのおすすめ本



今月の砂の女・ハンミョウ・キーホルダー

ムラタ製作所@murata1970・6月2日

砂の女に登場したハンミョウをあしらったキーホルダー付き！

安部公房好きは是非！

引用ツイート

アマノ無量塔(amano murata)@murata70ama・6月2日

アマノ無量塔1st作品集 CD版 7/22発売！

初回限定20枚に特典の斑猫キーホルダーつき！

ディスクユニオンオンラインショップにて予約受付開始

<https://diskunion.net/jp/ct/detail/1008150532>

アマノ無量塔(amano murata) @murata70ama・6月2日

アマノ無量塔1st作品集 CD版 7/22発売！

初回限定20枚に特典の斑猫キーホルダーつき！

ディスクユニオンオンラインショップにて予約受付開始

diskunion.net/jp/ct/detail/1008150532



あかね@akane0968・5月31日

文芸漫談今日もおもしろかった。安部公房「砂の女」とか、扱ってほしいなあ。ベタですが。

Wunderkammer 閉店しました@WunderkammerU・5月28日

『箱男』安部公房/文学ト云フ事

<https://www.youtube.com/watch?v=tb1qVoM4gJs>



『箱男』安部公房/文学ト云フ事

恋はあまりにも無垢だった。文学史上、最も先鋭なる前衛官能小説(アヴァンギャルド・ポルノグラフィー)!! ...
youtube.com

今月の人魚伝

歯タロー@om_gst999・6月2日

安部公房の人魚伝、ディスコミュ

ニケーションの素晴らしい短編

なんだけどこういう意識を持って

推しと暮らせる感覚を持つ人の

創作を見つけた時にコロンビアしてしまう

ることより辛いことなの、それはよくわからないが、しかし気にしなくてもすむような、軽い問題でないことはたしかだろう。

安部はこの、自分が自分の運命の主人公になれず、運命の不条理さに飲み込まれ、流されてゆくことの恐ろしさを、「砂の女」のなかでも取り上げて描くわけだが、この「人魚伝」はあたかも「砂の女」と前後して書かれた。だから、二つの作品が問題意識を共有しているのは不自然ではない。



『箱男』安部公房/文学ト云フ事

Watch later Share



『箱男』安部公房/文学ト云フ事
恋はあまりにも無垢だった。文学史上、最も先鋭なる前衛官能小説(アヴァンギャルド・ポルノグラフィー)!! Amazon『箱男』 <http://t.co/LPIdoPCU9X>
youtube.com

今月の勅使河原宏

Jeffrey@jeafyanagida・5月22日

「サマー・ソルジャー」

冒頭、和式便所の頭上ショット。米軍基地からの脱走兵ジム、匿う女、ボランティア家族、スナック、日本語勉強、強姦未遂、苛立ち、失踪、尋問。今、二人の米軍兵士を基軸日本国内で物語が展開されていく…本作は前作の「燃えつきた地図」の原作者安部公房との長年のダックを離



Jeffrey@jeafyanagida・5月22日

「燃えつきた地図」

冒頭、都会にある喫茶店。そこに1人の探偵が座る。失踪者の依頼、調査場所、依頼者の弟、首吊り自殺、暴動、地図、ヌードモデル、大燃商事常務。今、都会の迷宮にハマってしまった探偵の末路を描く…本作は安部公房の"失踪"三部作とされており、勅使河原宏監督が「他人の顔」の次に

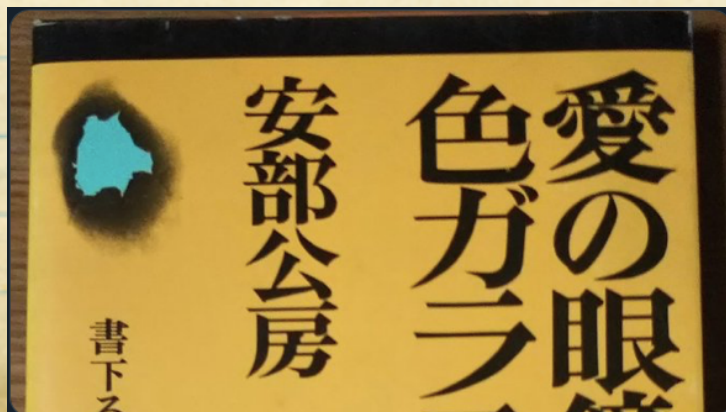


今月の愛の眼鏡は色ガラス

ネムリ堂@nemuridoh・5月21日

今日はゴミ捨て場で、安部公房の古い単行本を見つけ、拾って来てしまいました。勿体ない……。

「安部公房」の文字だけが目に飛び込んできたので、夢中で目当ての本だけ持ち帰ったのだけど、他のラインナップももう少し観察してくれば良かった。好みの本がまだあったかもしれないのに。



今月の父親の恐怖

泳げない魚@tanigawa0918・5月18日

絶対に面白いとわかっているけど手を出していない作家の一人に安部公房がいる。

私は父の蔵書を読んで育ったけど、基本的に文庫だらけの蔵書の中で安部公房はほぼ全部ハードカバーで揃ってて、その熱量が怖かった。

安部公房を読むと「父の深い部分にある何か」を見てしまう気がした。

今月の闖入者

Amama日本国旗あまま@amamahiroko・23時間

闖入者だよ、大陸は。

安部公房の小説をいつも思い出す。

日本政府、だらだらしてるんじゃないよ。

竹島のように盗られてしまってもいいのか！！

引用ツイート

産経ニュース@Sankei_news・23時間

尖閣周辺に中国船 51日連続

<https://sankei.com/world/news/200603/wor2006030018-n1.html>...

→中国海警局の船1隻が航行しているのを海上保安庁の巡視船が確認

→領海に近づかないよう巡視船が警告した

今月の無関係な死・時の崖

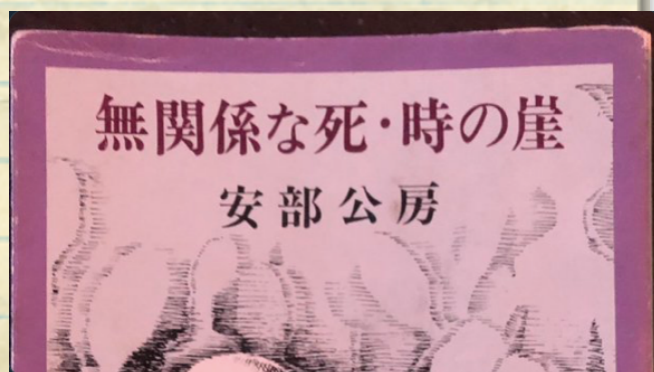
甚だ夜に@hanahadayoruni・5月29日

安部公房「無関係な死・時の崖」

生きることの滑稽さ、惨めさが詰まった短編集。緑色アレルギーの男が語る、緑の人魚に恋した話「人魚伝」が好き。

どの話も奇妙な着想で、暗さが心に残る。

いいな～！ビブリオマニアの激安棚で発見。



今月の第四間氷期

素晴らしき日々@Reverse_Atama・6月1日

個人的に安部公房の好きな言葉は、「うみだした者が、うみだされた者に裁かれるというのが、現実の法則なのであろう」(第四間氷期)というパッセージでござる。

「全部カバーお願いします」が言いづらい@semingongongo・5月29日

安部公房『第四間氷期』の新潮文庫版を読んでいるんですが、67頁・屍体の分析が八時つ

てところ、前後と時系列が整合しない気がするんですが…

気になって仕方ないんです…

私のは四二刷改版なんですけど修正とかされているんでしょうか…

今月の箴言

春は馬車に乗って@journalduvoleur・6月1日

安部公房の「弱者に対する愛はいつだって殺意がこめられている」って言葉を常に心に留めてる。

DD__word@DD__word・5月28日

美しい風景が、人間に寛容である必要など、どこにもありはしないのだ。

(安部公房『砂の女』)

死の名言bot@ffwhhros2・5月28日

「死を遅らせるために、死を早めているのが、文明という預金通帳のやりくりでしょう」

安部公房『カンガルー・ノート』

今月のドストエフスキー

ku@namu3po・9時間

このページなんかはわりと好き。

今月の笑う月

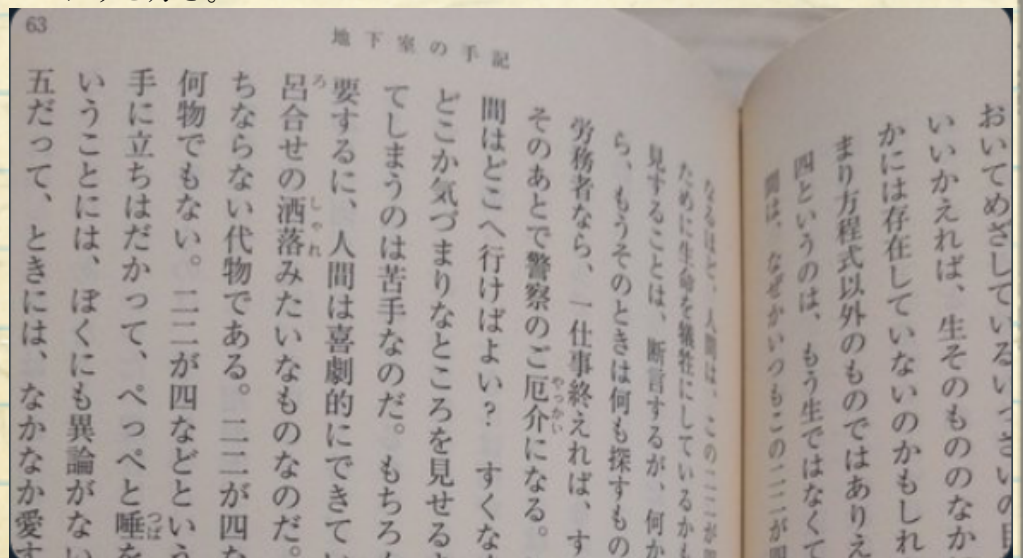
ずえ - Kozue Tanimoto@usakosann・5月29日

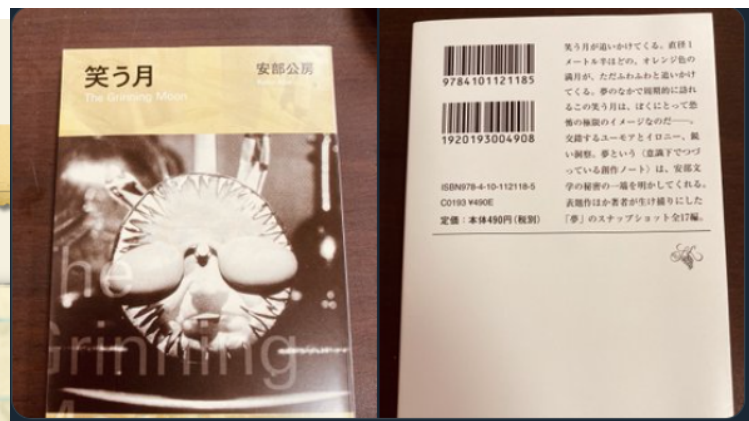
ちなみにオススメされた一冊。

誰もいない街の夜みたいなシュールな雰囲気がいーらしい。

読んでみる。

「笑う月」安部公房(新潮文庫)





今月の赤い繭

たつや@ss_63_h・5月28日

理由もなく好きだったのは安部公房「赤い繭」。不思議なのは、なぜあの作品を高校の国語の教科書に載せたのか。教えられる自信はまったくないし、意味不明の作品と捉えられる危険もはらんでいる。

巻頭詩
(4)
フェルナンデス

石原吉郎

フェルナンデスと
呼ぶのはただしい
寺院の壁の しずかな
くぼみをそう名づけた
ひとりの男が壁にもたれ
あたたかなくぼみを
のこして去った
〈フェルナンデス〉
しかられたこどもが
目を伏せて立つほどの
しずかなくぼみは
いまもそう呼ばれる
ある日やさしく壁にもたれ
男は口を 閉じて去った
〈フェルナンデス〉
しかられたこどもよ
空をめぐり
墓標をめぐり終えたとき
私をそう呼べ
私はそこに立ったのだ

全集未収録作品

シナリオ

『億萬長者』

分載 (2/4)

安部公房

息子 B

(ボクシングがまねをしなぐり)

「チエツ！ まだ云うやがる。これが俺達の家だ。云う事をもう一度、決儀して」

見せないと分るねえか。封金的なヤリだよ」

思わず、袋は、兄を打ちにのみ

かかっけゆく。兄弟たち、すばやく

身をかわして、袋の腕をねじ上げる。

ジタバタする袋。それを見て、はん

あわて、外にとび出してゆく。

は 交番の前

頼み込んでるはん。

はん

「お願いしますよ、おナツダニナたうてあれが私達の家だ。知ってるでしよう」

巡査

「まあ、まあ老ちついて、とにかくさう云う事にはあまりかかわり合ひにならん方がいよ。

よくある事なんだ」

はん

「こんなまじや、きこ何もかも巻き上げられて、しまいにほしぼり殺されてしまつてよ」

巡査

「まあ、まあ、あんたとは家族も少いんだし、……」

はん

「だって、うちんだって子供が十人もいたんだよ。それが一時に死んで、やって葬式代にすっかり困つちやたから、さういふ心配がないようにと思つて、葬儀屋になつたんじゃないか。」

やっと一人、葬儀屋になつてこれがり

巡査

は、たんど子供を生もうと思つていたのにさ
「まあ、まあ……」

はん顔をあつて泣く。

19 石段

その下で腰を下して、ポケット
から本を取り出した。夕テ。

本の表題「自分長者になる方法」

カッパい歩き方で車内太がその
傍を通りかゝる。

館

「どうした、アサレか？」

車

「ああ、アアレだ」

館

「まあ、わいよ」

車

「すわー」 「アア前はどうしたんだい？」

館

「俺は今日店が休みでよ、いつでも、休み
になうや休みで、俺にはやる仕事かたんと
あるからな。だいたい俺という人間はあん
な事をしするにや一す勿体ない人間なんだ」

(笑つて) 本の表題をオニノとは

たいて見せるから、

館

「やういつちやなんだけど一すむつかいミと
を考へてるんだ。ところがよ、仕事を
するには、参謀と兵隊がいるもんだな」

まず、俺は参謀だところか、お前兵隊が

いねえ。で、おまえ、俺と組んで兵隊に

なりねえか？」

車

(ギョッとして) 戦争はく、真平だ一

館

「なにさ、ニリやあめえ、戦力なき軍隊よ」

車

「へー」

館

「つまりだな。俺たちは一ッオウ万長者になら

ってわけだ。悪くはねえだらう。で、俺わ

研究してみてえんだが何と云うても、金

金、金、金、金のことばかり考へて外のこととは

一切考へねえことだ。カンタンじゃねえか、

金って奴は、じつとにぎりきんで、にらんてさえ

いりや、しやんとふえてくるもんだ。ところが

困った事に俺にや、そやにぎうてるもとので

金がねえ。でよ、まず手初めにそのもとので

金をつくらなきゃならねえってわけだ」

「なるほど、いっつはうまく行きそうは話だな」

館

「ほに、云うちまえばカンタンだが、あめえか思へう

ほど楽な話いやねえや。所が俺様はや

りっぱな計算がある。サニボリなものな、

空を見上げて指さし、

「いか、日本中に反かいてやがるビギニだ

俺様のチエは、ニッパでいともうけしよう

って訳なんだ」

二人まばいそうにいつと空を見上げる。

井戸ばた

せんたくしてゐる袋が夫婦。は人ははな

なす、りあげながら。

そこに館と車、やってくる。

館

「や、えらい、せんたくもんだな、お客さんの
かい？」

袋夫婦

「……………」

館

「ところでオマカメ。あんたんとこの二階の
娘さんに一寸会わしてくれねえか」

袋

「ムツとした口調で「なうねえ」

館

「そうえうなよ」

袋

「駄目ッたら駄目だ」

はん

「私たちに恥をかかせたくないなうやめー！
「せんたいどうしたッてえうだい」

館

袋

「それが分りやあめえ、文句ねえや。」

館

「たのむよ、親方、こいつはあめえ、
そこの大仕事なんだ。一生一度のお願いだ」

袋

「いやあ、オレに云いな、オレから云ってやらあ

はん

「駄目だよ、アニア。アニア人がよすぎているも
損ばかりしてゐるんだ」

館

「損はさせねえ、きつとすまだけのこととする
からよ。す、つまりだこう（……………と、指

で形を作りながら）細長い筒の様な

もんで、あすとパチくと音がするおもちゃ

を作ったらしいんだ何でもすてちゃんほ

おもちゃを作るのか、とくいたって話じゃ

ねえか。す、

袋

「あ、分った。押せばパチパチな筒みて
えなもんだな」

館

「そうだ、そいつを二本たのめてえんだ。
あれをするかうよ、タマまでいぜむたのみ
てえんだ」

袋

「あー……」

ニ高台の焼跡

館と車 パンも食うていさ。

館

「まあ、腹いっぱい食うてくれ。今夜からあめえ、
下かつやくかうな。とこで、モトデを作ろ
そのにはモトデがいさ。そのんだオモチヤの
あれと二つコロッケの代金だつてあめえ、
ただじゃねえんだからな

車 不安そうにパンを口からはなす。

館

「……という所でたいてい、奴は行きすまっ
ちやんだ。所が、この俺はまいるねえ。

困ったと思うとそりと、~~人~~人になんかわくんだ
車 ホツとしてパンにかみつく

館

「名あんつてのはな。外でもねえ。屑屋のフスマ
に貼つてあつたあり、奥の絵よ。あいつを

~~あめえ~~ あめえ、今から行子、十円で買ひ

車

取つてこい
「十円？」

二屑屋の玄関先

ふすまに貼つてあるうい絵。

車

(十四れおいて)「は、あじさん、その絵を
売ってくれないか？」

屑屋

「なんだ、おまえ、真々、絵でも集めてんの
かい？、こんな物、おまえ三文の値えりも

ねえんだぜ」

車

「いからよ」

屑屋

(そろそろ絵を貼がし「はがう」)「あか
な奴だよ」

お漢方薬の薬屋

中かうかけおいてきに館

3-1
31

24 焼け跡

魚の絵のうらに、何か粉をぬりつけている
館。そのそばで車。

車「なんだい、おまえ、それは？」

館「まあ、見てろよ、マタゴって云うもんだ。」

25 八百屋の店先に坐りこんでいる館。そのそばに、ぼんや
り車。

館「おやじさん、あんた絵を見るの、うめえって話だけ
ど、ひとつこの絵を見てくれねえか。俺はどっ
ちもあり大した絵だとは思わねえんだけど、
ある玄さんが来て、この絵一枚に三千円おそう
って云うだがね、ぜんたいこの絵にはそんな
価値があるもんかね」

八百屋「フール」

館「そのクロウトが云うのはどう、この絵のよさは
人間には、中々分らねえが、猫に見せりやすぐ
分るてんだ。一寸、まあ、猫に見せたらうん
んか、見てくれよ。オヤジさん、ここには猫はい
ちえの、み」

八百屋「いねえ、この辺じゃ、猫なんてみんな食っちま
うからなあ」

館「ふり回いて」「なあ、門太。おめえ、どこか行
って猫さがしてこい」

車「よし来た」

26.

家

面に於ては、
徳、田、何の味もつゝまゑて、
面になつてゐる。

車「獨」
「獨」

家族達、いっせいに手を上げる。

125

見事「駄目、一、二、三、は今朝、あつた、料金を
 さんだ、(集に向こ、)おせ、二、三、を、すく
 に料金を、二、三、を、すく

さうはして返事をしない袋。
息子A「決義してむづかしやうぞ。」

袋あわてて猫を受け取り、外へとび出す

28 外露地

子供達に取り囲まれて、猫をさげた袋と車

車「たのむよ、その猫を返してくれ」

袋「いけおえよ。今あめえが見た通りじゃねえか」

車「たのむよ、十分でいいから。戻った十分だ、すぐ

返してくるよ」

袋「十分おつ」

車「うん」

袋「いや、あめ、約束するよ、今あめが見た事を

おれにもさわねて」

車「するとも」

車、猫をひたたくように受けとると、いざ
いざ走りだしてゆく。

29 八百屋

猫をつれて入ってきた車。ハカみり覗きこん

でいる子供。猫、タタタの音をきか、うっ

なり声をあげ、奥の縁にとびあがってうこ

んとする。八百屋がギョとすると。餘、車に

猫をばらして合図する。猫、縁にとびあ

うてゆく。餘、おびやく身を八百屋に、あたま

す。やうて猫を逃がして。猫、おびやく身を

びない。車も一緒に猫を追い回す
といはじめる。子供達も手伝う。車
猫をけとばす。逃げだす猫。

館 (八百屋のちん子達のほしなから「ナ、どんな
もんかい?」

八百屋、絵を手ばなさうとしない。

館「なんだい、オヤジさん 絵を返してくれよ」

八百屋「つまり何んだ、この、こい、千丹ってさ、け

館「三千丹だよ返してくれよ」

八百屋「まあ〜」

館「返してくれてぼよ」

八百屋「つまり、千丹だけな」

館 (むきになって)「いけねえよ」

突然、車が叫ぶ。

車「大変だ、ネコ!・ネコ!」

叫びながら外にかけ出してゆく。

30 石段の下

館、車、袋、

車「みんなしくれよ、なあ」

袋「かんべんの何んって、あめね、あめは、今がけだぜ」

館「そんなばあは、猫が走るみ。猫が見てあれは

あめえのううじやねえか」

袋「りく、さうちやいけねえ、あやあめい、りく」

ってなもんじやねえ」

車「みんなしくれよなあ」

館「よしきた、ネコも引受けた。困った事がありや、お
水にためめ。何んでもみんでも引受けてやらあ。
所で、そのためにもよ、ヤツキたのんだ、あのオモヤ
がどうしてもあるんだ」

袋「だって、おめえ、俺はもうどうしても返れねえよ」
館「よし、それじゃあ、俺が直接交渉してきてやらあ
館、立去る。

31 ソラギ店の裏

屋根をはいて上ってゆく館。屋根裏の
「シメシメ、シメシメ」
「シメシメ、シメシメ」

32 ソラギ店の屋根裏

「シメシメ、シメシメ」と色んな道具がちら
ほらしている。その中で、シカンの根を机
に、しきりに何か計算している。
そして、顔を上げると、窓の外で、館が、
シットと指を動かしてあんなに、窓から半
身を差し入る。

館「すてちやん、なにさうだわ、今は何んの発明をし
てあるんだ」

「（ニヤニヤ笑いながら）「相変らずだ」

館「所ですてちやん、お願があるんだがね、このうい
（ト）とチビの、さーながら、細長い筒で金を押
すとカチカチと音がする、なオモヤを造ってモ

for

25

「もちろん。――で、今晚迄は作ってもら

721

ありさあ

え、今すぐになつて……おめせやく／＼二本、
すぐに、あのむし。

何かを組合せはじめる。そして見ながら

「さーちゃん、今何んの発明しているんぞっけ」

「はくたく」

何だそなんぞ、はい、いふんはあつて
おんだらう

(平然と)「それや、普通」の「よくかんじ」ではないわ。
でも是れじゃない。京子「よくかんじ」なのよ。「

館裏張きゆるめて笑ひ出す。すて一巻
になつて笑ひ出す。

「原子はくたむ」

「え、原子バクダツ」

「大變なもんぢや。」

「*トウモロコシの皮を剥いて食べたい*」

能笑う。可ても笑ひぬ。お果上ったオモケ
ヤをさくおしむかう

すてつ館を叩くと、オモケや、か、ちん
しなかり館、大抵がで。

1947-1948

下の方でゴトゴト音がする。あわ
てて、そのおもむきひっくり、

「今晚持之」

逃
け
た
ゆ
う
で
す。

下の格段から島子Aが^おをのぞける
島子A「なんだい、お嬢さん、何か変な音がしていいんじゃないかしら」

すゝり何て

「Faintly」

白鳥 A 氏 氏を以て筆名を以てしむ

33

燒跡

夕暮が迫る。

館、オモキヤをかうくーと空に向けて鳴
し大串で笑え。

その一函わきで今うになは分らないさう
なるので、そのオモチャを眺めてゐる袋と車

34

夜の街

ビルが立ち並んでいるきれいな町、
通るのは高級車だけ。町角に立つて
いる露と車。ふりめみた一台の車を呼

館「こいつは大変だ。セチカレントも放射能が
ていりし

団 (首をみしげて)「君は？」
館 (ヤキになつて)「たいへんだ」
セキカウトン

あな、致命傷です。一作、この車でここを通
つて来たんです。きつと原子灰の沢山ふつたところ
を通つてきたんでしよう。あなためやうな自家
用車を持った人が、ガイガー計数機を持ってに
いるなんて、全くうかつな話だ。日本中、原子灰が
降っているとやう、こんなぶつそつなせいで、あな
たのようは大物がガイガー計数機なしでいるな
んて、まったく……」

「神妙に」「いや、いい事をやりました。さうよく私も手に入りました。で、どこに売ってるんですか」「いや、私共が製造元なんです、はい、うゝ、しほ屋館

「うりつがけいもんで、もう全く品切れなんです」
「やあ、そつをきいて下さい」
「やくとんどもない。代り――専任家は
一刻も手ばなす事のできない道員です。」

団、いきなり、ピストルをとり出してつぎつけるとあいてゐる手で、ポケットから千円札を一つかみ、籠に投げつけ、オミチヤを、う

はい、屏をいめる。車全速力で走りやる。
館、エノ………と叫びながら、金のカービ
ヨウをすすめる。頭をこいでいる車。

35 繁華街の小さな傘屋

一番安い傘を20本買入れている館と車。

36 酔っぱらいの多い繁華街

別に雨が降っているわけでもたうが館と車とそれそれ傘をさしている。のどりの8本の傘を車がかかえている。不意に館がオモて空にむけてカチューとたうす。

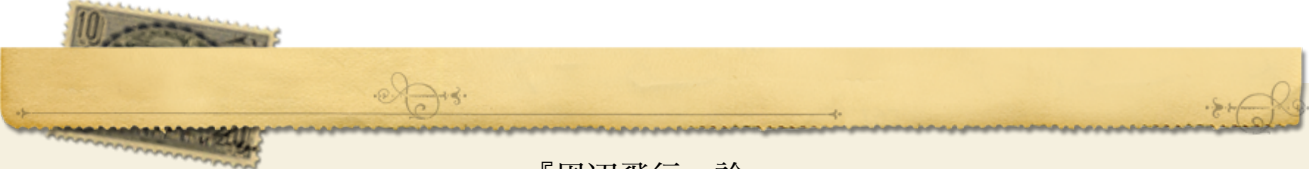
館「やッ、たいえんだノ——」
一万カウントの原子灰が降りはじめた。

通行人、立ちどまる。

館「うかうか、しちゃいられない。みなさん生きるか死ぬかの瀬戸際だ。早く、早く、この放射能研究所の傘を買いなさう。一本、たった千円だ。」

四方八方からおどいかかってくる人々の衆。大混乱。群集立ち去る。のこのされ左二人、グニヤグニヤになつて、道に倒れている。館は、ちぎちぎとありを見廻す。キョロキョロとあちこちを丸をいろいろ上げるから、

一枚、二枚、三枚、四枚……チェッ、全部百円札



『周辺飛行』論

(28)

3. 『周辺飛行』について(21)

鰐魚のエピソード——周辺飛行24

目次

- 0. はじめに
- 1. 貝殻草の一行
- 2. 貝殻草とは何か
- 3. 和漢混淆文
- 4. 漢字は中間項である
- 5. もし漢字と云ふ中間項が無かつたら
- 6. 黙読と朗読と科白の違い
- 7. 貝殻草の一行の朗読は何を役者に要求するか
- 8. 最後に再帰的な問いを：一体何故貝殻草は貝殻草と呼ばれるのであろうか？貝殻草とは何か。何故貝殻草は貝殻草であるのか？

0. はじめに

安部公房がこの短いエッセイの中で書いてゆく順序に見出しをつけて小さくまとめつつ安部公房のいふところを理解して行きたい。

この『鰐魚のエピソード——周辺飛行24』は、同時並行して上演された次に挙げる三つの作品と深い関係があります。冒頭に安部公房曰く「十一月の紀伊國屋ホールでの公演のために、三本の小品を用意して、いま連日稽古の最中である。三本のうちの一本は、以前から計画していた朗読の舞台化だ。材料には「箱男」のなかの”鰐魚のエピソード”を選んでみた。むろん単なる朗読ではない。ねらいはあくまでも舞台化である。」〔註1〕

- (1) ダムウエイター
- (2) 鞆
- (3) 鰐魚

〔註1〕

「三本の小品」の名前は全集第30巻154ページ参照。この三つの作品が三つで一式と云ふことの位相幾何学的 (topological) な意味については既述の通りです。『●』(もぐら通信第●号)より引用します。この引用は二例を挙げてゐますが、この安部公房スタジオの例を三つ目に加へて三例とします。『[鰐月報30]三浦雅士『安部公房の座標』~「安部公房の座標」から何が解るか~』(もぐら通信第94号)より引用します：

「3.1.1 安部公房の具体的な作品とtopologyの関係を理解する
(略)

これらの紙がトレース紙の上に描かれてみると想像して下さい。さうして、その幾枚も重複した上から眺め（勿論どの紙をどの順序で重ねるかはあなたの目的次第です）、それを透視してあなたの視線の集中した所にあなたの解答がある。これがtopologyのものの考え方です。

安部公房に『透視図法』といふ小説がある。三つの短編からなる小説の総称ですが、それぞれの題名は次の通りです。

- (1) 現実
- (2) 盗み
- (3) 泣く女

これら三つの話の骨子を三枚のトレース紙に描いて重ね、あなたが上から観て、何か色の 特別に濃い所、例へば、線分が集中してゐる所とか、円が重なつてゐて格別に濃厚であるとか、そこにこれら三つの短編の本質（エッセンス）があるといふことなのです。即ち、本質とは関係の総体（函数関係）であるといふことです。本質といふ言葉に意味はなく、何か実体がある訳ではない。あなたは意味の運搬人ではない。これが topologyの思考論理であり、本質に至るための手続であり手順であり、このまま安部公房の思考方法です。

『透視図法』の例で行きますと、まあ、落語の例でもあるやうに、あなたが三題話を自分で拵へてみると云ふことなのです。これが「透視図法」と云ふ名前の総称の意味です。

また同様の話に、これは戯曲ですが、『棒になった男』と云ふ三つの戯曲からなる戯曲があります。これも同様に三つの章は次のやうになつてゐる。

- (1) 鞆
- (2) 時の崖
- (3) 棒になった男

これら三つの章に共通する何かを、あなたは発見して名前を付けると、あなたは此の戯曲の本質に至る。本質といふ言葉に意味はなく、何か実体がある訳ではない。あなたは意味の運搬人ではない。即ち、あなたはこれら三つの関係の総体（函数関係）を知ることができて、topologyといふ安部公房の大好きな数学の本質に至る。数学もまた言語（logos：ロゴス）に拠るのですから、数字で表すか文字で表すかは関係がない。論理の問題としては同じことです。また、作品の属する範疇にも無関係に、越境的に、範疇横断的に、あなたのなすべきこと、なすことのできることは、ここでも、『透視図法』や『棒になった男』の例で行きますと、また落語の例でもあるやうに、

あなたが三題話を自分で拵へてみる

と云ふことなのです。

あなたが層を重ねた三題三層三枚の本質を層横断的に一筆で描くことができたなら、また反対に層を重ねた三枚の紙を一筆で描くことができて本質を一筆書きで抽出して表すことができたなら、またこれらを言葉の意味の世界、即ち概念の世界で層を重ねた存在の三階層を一筆で描くことができたなら、さう、階層と階層の間を三段の階段で接続しながら此れができたなら、あなたは安部公房と同じ構造の作品を創造した事になります。」

貝殻草の一行とは小説『箱男』（1973）の《それから何度かぼくは居眠りをした》と題した章の第二段落の最初の一行である：

「貝殻草のにおいを嗅ぐと、魚になった夢を見るという。」

安部公房の読者に周知の如く、安部公房独自の汎神論的存在論の記号《》を使つてみて、この《と》の二つの片端・片端の記号の間の隙間に挟まれてそこから生まれて来る一行が《それから何度かぼくは居眠りをした》と云ふ一行であれば、この章は既に最初から始まる「以前」から存在の中で話の繰り広げられる章である。そして、貝殻草は地の文にある海藻であるが、これは存在の海藻だと云ふことを強調して云へば《貝殻草》と書かれて一向に差し支へのない海藻ですが、ここでは既に章の名前に存在論の記号があるので、必要な強調の場合以外には記号を外して話を続けます。〔註2〕

〔註2〕

安部公房の存在論の記号の意味については『安部公房の初期作品に頻出する「転身」といふ語について』（もぐら通信第56号から第59号）を参照のこと。詳しく論じました。

2. 貝殻草とは何か

かくして、貝殻草が実は貝殻草である由縁は第一段落に書かれてゐる：

「ところで君は、貝殻草の話を聞いたことがあるだろうか。いまぼくが腰を下ろしている、この石積みの斜面の、隙間という隙間を、線香花火のような刺だらけの葉で埋めているのが、どうやらその草らしい。」

貝殻草は「この石積みの斜面の、隙間という隙間を」「刺だらけの葉で埋めている」が、しかし、これは実は「どうやらその草らしい」と云ふのであつて「その草である」と断定で云ふのではないのであるから、これは伝聞の中の草であり、従ひ間接話法の中の草である。

この貝殻草「らしい」と云ふ草について確かなことは、「いまぼくが腰を下ろしている、この石積みの斜面の、隙間という隙間を、線香花火のような刺だらけの葉で埋めている」と云ふことが話の中での現実であり事実である。いつもの安部公房らしい次の話法の構造の中に、この草は存在してゐる。ドイツ語ならば（と埴谷雄高はいふだらう）als ob（アルス・オブ）の世界、英語ならばas ifの世界、日本語ならば非現実話法の世界、即ち安部公房用語で云ふfake fish（贗魚）、fake sea grass（海藻）の世界、fake（フェイク）の世界です。

作者（安部公房）＞話者＞話法1（伝聞の「らしい」草）＞話法1.1（石積みの斜面の隙間にある草）〔註3〕

存在の草は、他の事物同様に隙間から生成するのであれば其れは、草らしい草であり、人間ならば人間そつくりの何か（存在）なのであり、従ひ「草そつくりの草」即ち草の贋物、即ち貝殻草の贋物が《貝殻草》であり、貝殻草が《貝殻草》だと云ふことになります。どちらが本物でどちらが贋物なのか。これが安部公房のtopologyによる本物・贋物論なのでした。

[註3]

この安部公房固有の話法の構造については「『デンドロカカリヤ』論（後篇）」（もぐら通信第54号）の「2. 蒸留法」の章にて明確にしましたので、これを参照下さい。

誰が何かが見るのかはわからないが、「貝殻草のにおいを嗅ぐと、魚になった夢を見るという。」

誰か何かが見たならば見たものは魚になった夢を見るが、他方並行して（果たして此のやうな時間の存在しない空間の世界で同時にと云ふべきであらうか？）、夢見られた魚は、誰か何かを夢見るものであり、夢見るものになる。と云ふのが、安部公房が役者に説明して理解を要求した論理であつた。[註4] 即ち、

夢見るものは、誰か何かの夢に見られるものである。

存在の舞台で観客に夢見られる役者は、観客を夢見るものである。即ち、

観客は俳優によつて、または存在の舞台自体によつて、夢見られるものである。

[註4]

夢を見る人が夢に/として見られる人であることは、この連載の諸処既述の通りです。その論理的説明の一つを「『周辺飛行』論（17）：3。『周辺飛行』について（12）『箱男予告編そのII—周辺飛行14』」（もぐら通信第104号）より再掲します：

「そして、”もしあなたに多少でも時間的余裕があれば、ぜひともお願いしたいことがある。箱男と同じ箱をつくって、ほんの二、三分でいいから、かぶってみてほしいのだ。”と存在の詐欺師（勿論超一流の詐欺師です）安部公房にいはれて、ほんの二、三分ならと思つて被つたが最後、これが始めも終わりもない「二、三分」といふ事に気付いた時には後の祭り、この安部公房の箱製造懇願文といふべき祈願文の後に続く絶対副作用がないとは、断言できないが、食塩だって量を超えれば毒になりうるのだ。zといふ言葉の通りに「絶対に副作用がある」ことを知り、あなたは「量を超えた」食塩に「いつの間にか」なつてしまつてゐて、絶対的な副作用に殺（や）られてしまつてゐて、即ち質に転化してゐて「毒になりうる」どころか毒になつてゐて、時折襲撃者に火搔棒か空気銃で襲はれる事になる。

だから、これは「箱男 予告編」なのではなく、もやは此の予告編は「明日の新聞」なのであり、『第四間氷期』の予言電子計算機なのであり、「既にして」あなたの身に起こつたことのある出来事なのです。さうして、本編『箱男』を読みながら、あなたは自分自身を、即ち「僕の中の「僕」」を思ひ出す。ああ、俺は/私は迷路だったのだ、と。さう、箱の中は、箱が閉鎖空間でありながら、無限の迷路の空間であることを思ひ出すこと[註4]、これがあなたが自分自身を思ひ出すことなのです。勿論、その時には後の祭り、時既に遅しであるが、しかし此れが私たちの人生であるです。何故なら安部公房の超越論の世界認識は、世界は差異であ

り、時間的差異ならば、それは遅延であるからです。空間的差異は？それは、「周辺飛行13」の冒頭にあつたやうに、立体交差点に「いつの間にか」あなたは立つてゐる。交差点に立つから箱男になるのか、箱男になるから交差点にゐるのかは依然として不明である。

〔註4〕 安部公房のこの論理は初期の『天使』にも次の箇所がある終生変はらぬ安部公房文学を貫徹する topology の論理です：

「実の所を言えば、私も始めこれは唯の部屋だと思っていた。所があにはからんやである。これが宇宙そのものだったのだそして冷たい壁だと思っていたものが、実は無限そのものであり、恐ろしい不快な鉄格子だと思っていたものが、未来の形象そのものに他ならなかったという訳なのだ。」

この『天使』の主人公の口にする「箱の中の論理」を作中論じてゐる作品には次のものがあります。

1. 箱男（全集第24巻、418ページ）
2. 使者（全集第9巻、295ページ）
3. 人間そっくり（全集第20巻、243ページ）
4. 様々な光を巡って（全集第1巻、202ページ）
5. 周辺飛行4ー自己犠牲（全集第23巻、128ページ）
6. 問題下降による肯定の批判：トポロジーの町の創造＝雲間より漏れ来る一条の光（全集第1巻、11ページ）

かうして、今回の話はゴム人間といふ夢人間についての周辺飛行の話になるのです。ゴム人間があなたを夢みるのか、あなたがゴム人間を夢見るのか。この両方を称して夢人間と呼ぶ事にします。さあ、その上で、二項対立を超越して第三項を求めて生きたいと時間の中で 切実に願ふ安部公房読者であるあなたには、その答へは問ふ前に「既にして」「いつの間にか」（共に超越論的時間）「どこからともなく」（超越論的空間）出てゐるのではないでせうか。」

ところで、いつもの安部公房の存在論の記号（）、即ち主体客体の等価交換される沈黙と余白の場所は一体この「周辺飛行14」のどこにあるのだ？と問ふてみると、やはりあるのです。それが、ここまで論じて来た《箱の製法》といふ存在へのガイドブックの次に、二つの*の柵を超えた向かふにある、S・カルマ氏が話の最後に飛び越える★印の向かふにある砂漠の中で垂直方向に果てなく成長して行く壁になるやうに、同様に、読者であるあなた自身が無時間の中で垂直に際限なく成長する箱男に「いつの間にか」なつてしまつてゐる。垂直方向は時間の存在しない方向です。ですから、あなたは成長しない。即ち此の*の柵といふ時間と無時間の境界線、即ち境界線といふ周辺飛行をして其の境界線を越えたところで、あなたの意識の内部と外部は等価交換されてしまつてゐて、「いつの間にか」あなたは存在といふ無時間の存在になつてゐる。即ち「僕の中の「僕」」、「私の中の「私」」になつてゐる。これが《箱男》であり、《壁》であり、「ほんの二、三分」が「いつの間にか」永遠に「なつてしまつてゐる」あなたである「僕」である。」

また、夢見る・夢見られると云ふ関係について上記の引用の「主体客体の等価交換される沈黙と余白の場所」について、安部公房の本稿「周辺飛行2」を論じた時に既に同じ論理を免疫の有無で仕分けた、人間・貝殻草・魚の関係に関する本物・贋物論を表にしてまとめてありましたので、これを再掲して読者の理解に供します。

「周辺飛行論（5）：ところで君は――周辺飛行2」（もぐら通信第92号）より引用する下表は、安部公房の本物・贋物論が単なる形式的に理解された等価交換論ではなく、貝殻草の夢を見ない人間がゐると云ふところに眼目があるのです。これを免疫視点で安部公房は書いてゐる。もちろん下表F列の「備考2」の行2をみると、依然としてネスト構造、入籠構造の本物・贋物論であることには変りはないのですけれども。しかし、

他方、F列「備考2」の行1のセルにある「夢から覚めても鰐魚であり続ける」免疫のない鰐魚になった鰐魚（即ち人間）のことをご覧下さい。詳細の論旨は「『周辺飛行論（5）』」に譲ります。

	20181101	岩田英哉	もぐら通信			
				貝殻草の匂いを嗅ぐと何故人間は鰐魚になるのか？		
	A	B	C	D	E	F
		貝殻草	免疫のある人間の例	備考1	備考2	
1	免疫がない	鰐魚	貝殻草の夢を見る	—	「ぼく」は「猫に見据えられ」ても「なぜか不気味でしかたがない」くなることはない	貝殻草の夢を見るとは鰐魚になり、夢から覚めても鰐魚であり続けること
2	免疫がある	鰐造者	貝殻草の夢を見ない	鰐宝石屋、手品師、「ぼく」	「ぼく」は「猫に見据えられる」と「なぜか不気味でしかたがない」	安部公房固有の話法「僕の中の「僕」」。「猫に見据えられる」と「なぜか不気味でしかたがない」「ぼく」はどちらの「ぼく」か。
上図で判ることは、鰐物になる/であることと鰐造者であることの違ひは、貝殻草の匂いを嗅いで免疫があるかどうか、即ち夢を見て鰐魚になるかどうかの違ひである。鰐造者はこの夢を見ない。とすると、安部公房固有の話法「僕の中の「僕」」にあつて、前者の僕は免疫のある鰐造者であり、後者の「僕」は免疫のない一人称であるといふことになる。とすると「猫に見据えられる」と「なぜか不気味でしかたがない」「ぼく」とは、この話法にあつて、前者の僕である僕が、後者の「僕」になる事を恐れる「僕」であるといふことになる。この話法については「『デンドロカカリヤ論（後編）』」（もぐら通信第54号）を参照のこと。詳述しました。						

観客はあなたによつて、またはあなたはあなた自身、即ちあなたの中の「あなた」である観客によつて、夢見られるものである。〔註5〕

〔註5〕

この安部公房の論理については三島由紀夫との対談『二十世紀の文学』その他に言及されてゐる：

三島由紀夫との対談『二十世紀の文学』で、作者—読者論として、二人の間で、次の会話が交はされる。安部公房ならば『他人の顔』の論理、三島由紀夫ならば『仮面の告白』の論理である。

「安部 きみが剣道をする。（笑）剣道をする前は、剣道の一観客だったにすぎない。

三島 そうそう、観客だ。

安部 それがある瞬間において、行為者に飛躍するわけだ。きみは有段者だけど、プロとは言えないが……。

三島 まあ、それはいいよ。小説家にしておけよ。

安部 で、小説家になったから、それでいま、小説家の立場で話しているが、しかし依然としてきみのなかには、小説家に転化する以前の読者が住んでいる。

三島 それはあるね。

安部 その読者が、きみのなかの対話者になって生きている。生き続けている。（略）〔以下、書く理由とは作者は問はれると色々と答へるが〕、実は「これは全部嘘で、やはり自分の中の読者と対話していると思うのだ。（略）

三島 そうだよ。

安部 そうですね。その、つまりおのれのなかの読者、というものが、僕は、伝承している主体だと思うのだけど、作者ではないくて。だからきみが言っているように、出来上った結果を受け継いでいるにしても、その受け継いでいる人間はさ、作者三島ではないのだ。きみの対話者なんだな。だからその対話者がきみで

あつて、作家三島は他者だよ。他人だよ、きみにっては。

三島 僕は僕自身の作品を絶対にエンジョイできないもの。

安部 それは自己を分裂させた代償だよ。

(略)

三島 そうかね。僕は、つまり、不特定多数人が僕に象徴されるという考えはとても好きだ、そういう自信はないけれども、そういう考えはとても好きだ。そういう自信はないけれども、そういう考えをもし持っていたら、幸せだと思う。

安部 でも、今度のきみの芝居を読んで、つくづく思ったな、ああ、これは書かされた芝居だ、書いている芝居ではない。だからいいんだよ。つまりね、作品として自立できる作品って、全部そうだよ。

三島 それは無意識……。

(略)

三島 きみは、それは集合的無意識ということを使うの？

安部 むずかしいことを言うなよ。そういう学術用語抜きにしてだな。(笑)

三島 僕は混沌がとてもしやなんだ。つまり、読者とかね。

安部 読者は自己の主体で、作者は客体化された自己なんだよ。

三島 とっても混沌というのは気味が悪いよ。

安部 気味は悪いさ。」(全集第20巻、81ページ～82ページ)

この安部公房の主客等価交換表を再掲します。凝視してもらひたい。表に穴の開くまで：

安部公房の「主観・客観等価交換表」			
(非ユークリッド幾何学の世界=topologyの世界)			
「僕の中の「僕」」といふ話法に於いて			
SUBJECT		OBJECT	
主観	第三の客観 / 存在	客観	西洋哲学用語
主辞		嬪辞	
主体		客体	
読者		作者	安部公房の哲学用語
自己の主体		客体化された自己	
「私」		実存	
素顔または単に顔		仮面	
本質	存在		
安部公房の超越論（安部公房の空間論＝ ＝汎神論的存在論＝topology（接続と変形の数学）			
↑			
等価交換の境界線（上位接続線＝ ＝無時間の接続（conjunction：論理積）の上に生きてゐる			

さて、このような構造にある話中話、劇中劇、作中作は、安部公房の話の構造であり、それが常に三階層であることは読者ご存知の通り。そして、それはメビウスの環になつてゐることも。この最後である最初の一捻りで、現実の時間の中の作家は夢の無時間の中の作家になる。夢見たものが夢見られたものになり、書いたものが書かれたものになる。安部公房の作品のノート・ブックの構造です。

作家（安部公房）＞話者（シナリオ）＞話法1（伝聞の「らしい」草）＞話法1.1（石積みの斜面の隙間にある草）＞ニュートラルな演技（存在の演技）＞存在の舞台（夢見る舞台）＞夢見られた観客＞夢見られた舞台＞話者（シナリオ）＞作家（安部公房）

即ち、

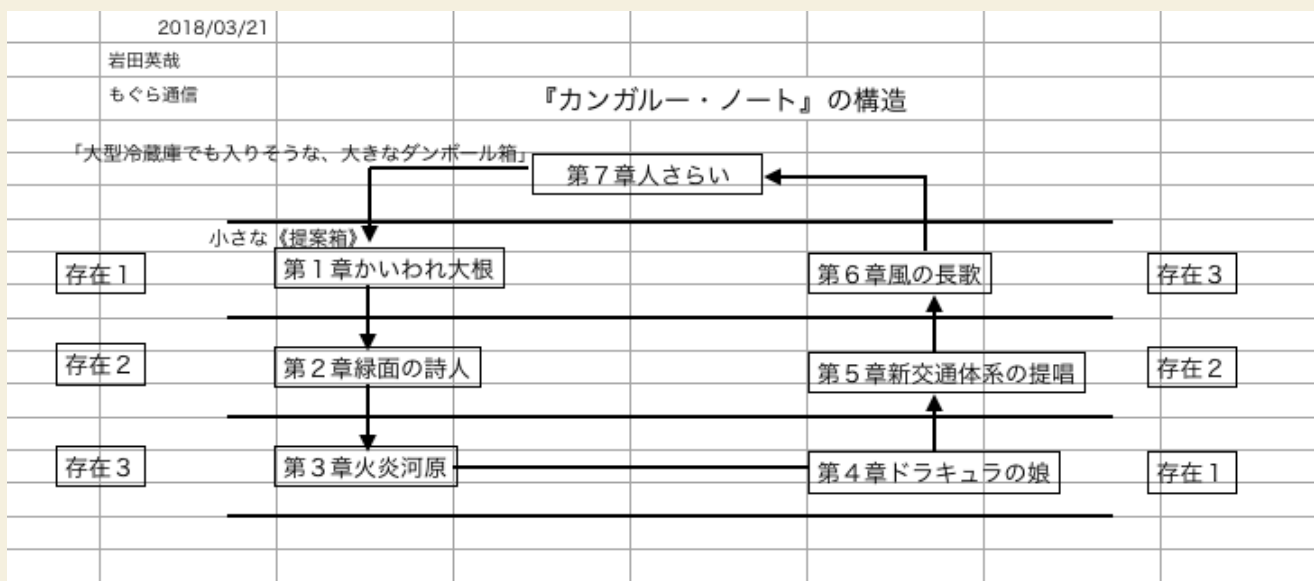
階層1：作家（安部公房）＞

階層2：話者（シナリオ）＞話法1（伝聞の「らしい」草）＞話法1.1（石積みの斜面の隙間にある草）＞

階層3：ニュートラルな演技（存在の演技）＞存在の舞台（夢見る舞台）＞夢見られた観客＞夢見られた舞台＞

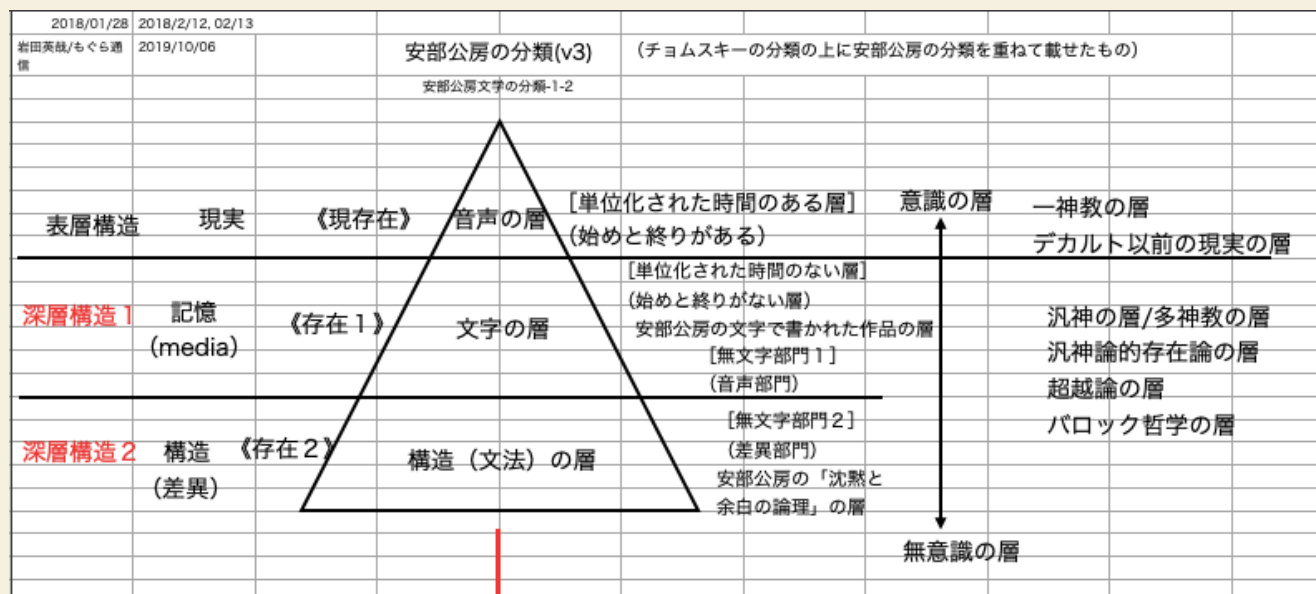
階層1に戻る：話者（シナリオ）＞作家（安部公房）

この同じ階層図を『カンガルー・ノート』論より引用して以下に掲げますので、ここで一度安部公房の世界の在り方を思ひ出して下さい。書いたものが書かれたものになる。安部公房の作品の《ノート・ブック》の構造です。



これを更に一般化した階層図が、チョムスキーの生成変形文法の論理の上に安部公房の此の論理を重ねて作成した次の「安部公房の分類(v3)」（チョムスキーの分類の上に安部公房の分

類を重ねて載せたもの)」の図です。再掲します：



ここで、私たちは初期安部公房が願った次の存在概念を巡る三つの思ひを思ひ出すことが必要だと思ひ出す。

安部公房の名付けた新象徴主義哲学といふ「この哲学とは『詩と詩人（意識と無意識）』に拠って簡潔に言へば、二項対立の両極端の項を否定して、自己喪失による記憶の喪失を代償に（この否定の中に自分自身の否定を、この否定とは自己喪失と記憶喪失と意識喪失のことにほかなりませんが、このやうな否定を含むといふことです）、果てしない垂直方向（時間の存在しない方向）に次元展開を繰り返した果ての究極に観る（自己の反照としての）第三の客観、即ち存在の創造をするといふ方法論でありました。ここで、

- (1) 観ること
- (2) 自分自身が存在になること
- (3) 存在自体の出現

これら三つが一つになつてゐます〔註6〕。ここにも3といふ数字があります。

安部公房の、これが創作の秘密であり、一生を貫く創作のための方法論です。これは、コンピュータの基礎であるブール代数による二進数の論理演算の論理によれば、否定論理積といふ論理に当たります。これが、一生の安部公房の生きる論理であり、安部公房の「現代の実存哲学とは一寸異つた実存哲学」であるのです。

〔註6〕

- (1) 観ること

これもリルケに学んだ事です。以下中埜肇宛書簡より引用します：

「中埜君、御變りありませんか。昨日やつと旅行から歸つて参りました。永い旅でした。丁度リルケがロダンから學んだ如く、僕もリルケから「先ず見る事」を學びました。」（『中埜肇宛書簡第5信』全集第1巻、92ページ）

安部公房の詩に『観る男』といふ詩がある。（全集第1巻、133ページ）ここには、既に「明日の新聞」が「書き了へた」「未来の日記」とし出てくる。

また、汎神論的存在論の形象（イメージ）が、後年の海や洪水などに通ずるものとして、次のやうに歌はれてゐる。

「此の果てしない存在にとりかこまれて、あふれ出た透明な涙を両手に受けるのは……？唯一未来の日記を書き了へた時に……。」

此の詩には、これ以外にも、転身、沈黙、「僕の中の「僕」」の話法、出発、忘却といふ、安部公房文学にとって本質的な用語が書かれてゐる。

（2）自分自身が存在になること

「詩人、若しくは作家として生きる事は、やはり僕には宿命的なものです。ペンを捨てて生きるという事は、恐らく僕を無意味な狂人に了らせはしまいかと思います。勿論、僕自身としては、どんな生き方をしても、完全な存在自体——愚かな表現ですけれど——であればよいのですが、唯その為に、僕としては、仕事として制作と言ふ事が必要なのです。これが僕の仕事であり、労働です。」

（『中埜肇宛書簡第8信』（1946年12月23日付）、全集第1巻 188ページ下段）」

（3）存在自体の出現

『詩と詩人（意識と無意識）』より引用します。ここでいふ第三の客観こそが、安部公房のすべての主人公の最後に観る究極の存在のことなのです：

「諸々の声は吾等の魂が夜の本質にふれた所から始まる。それが様々な次元に展開されて言葉となる。それは自己否定＝自己超越の形を以て意識の中に捉えられる。物それ自体、云い代えれば夜の直覚が展開する自体として或種の象徴的予感を産みつける。その中にこそ実存的意義を失わない、客観なる言葉を生み出した本源的な内面的統一に反しない、第三の客観が視視されるのではないだろうか。

如何なる表現も主観を通してのみなされ得ると云う事は明かである。主観的体験のみがあらゆる意識を言葉たらしめるのである。そして当然、生存者としての人間各個の内面的展開次元の相異に従って、その言葉の重さ（含まれている次元数）の相異が考えられる。主観はその魂の夜の本質にふれる程度によって様々な重さを持つ。

では此の主観のつもり行く次元展開の究極は、一体何を意味するのであろうか。その時人間の魂は限りない夜への切迫を体験するのである。夜の直覚は単なる概念ではなくなり、行為・体験・方法の中に現実的な姿を表すのである。そして、此の永遠の距離を以てはるかへだたっている究極を、吾等は第三の客観として定義する事は出来ぬものであろうか。」

（全集第1巻、107ページ）」

さて、この章で語つてきた以上総てのことは、そのまま次の和漢混淆文に関する3階層の話に続いてゐます。

3. 和漢混淆文

和漢混淆文とは次の、これも大きくは二つの、小さくは三つの文字からなつてゐる。〔註7〕

(1) 和文字の部（日本の文字の部）

①カタカナ

②ひらかな

(2) 漢字の部（外国語の文字の部）

〔註7〕

不思議なことに、和字2対漢字1の比率に、和漢混淆文の混淆はなつてゐる。海2・地1、これが習合の比率です。大陸に対しては和字（カタカナ・ひらかな）は海と云ふこと、安部公房の存在論の記号を用ひれば《海》と云ふことです。漢字はいふまでもなく地（つち）になります。この変位・変形・変位相をなした日本人の情意（こころ）はとてもよく解ります。『縄文紀元論 Topologyで日本人を読み解く（4）』（もぐら通信第111号）の「【結論4】：東国三社とは何か」から引用します：

「この習合の比率は、三種の神器の比率と同じです。後述しますが、三種の神器の由来の比率は、

(1) 草薙の大刀は海の民の語彙：海1

(2) 八咫の鏡は海の民の語彙：海1

(3) 八咫の勾玉は地の民の語彙：地1

となつてゐて、

習合の海・地の習合要素の比率は、海2：地1の比率です。全体は3。3といふ数字は高天原0の数字でした。同様のことが、この常陸（日立）の国の三社（3です）についても配慮、否、神慮が、なされてゐる。神慮による習合比率は、海2：地1といふ事です。縄文紀元を論じて行くうちに、同じ例をこれからも幾つも知ることになるでせう。と書いてゐて今連想の働くのは、イザナギ（風）の命の根の国脱出後の禊でも、最初には川の水で、次に海の水で禊をしたといふ故事があるので、これも同じ等価交換原理によつて、次の神々が生まれてゐる。この最初が地の民の水である川、次に海の民の水である海、といふ順序に既に習合の感覚と論理があるのです。高天原の言語原理は日本中の津々浦々まで透徹し貫徹され首尾一貫性を以て実現されてゐる事は、これから幾つも例題としてみることにします。」

この古代的な日本語のみによる日本語本来の音声と音義による演技論が、当時もそして今も前衛と呼ばれることは実に奇妙なことである。それほど私たちは明治以来の俗称近代といふ時代で日本人であることを忘れたといふことなのであらうか。率直にいへば、安部公房スタジオの後期の舞台は映像で観ると（例へば「イメージの展覧会」）、能の舞台を思はせるのです。高校生時代の安部公房の詩作の意図の本質的な領域が、自分の汎神論存在論（『詩と詩人』を見よ）を万葉時代の語彙を使つて表現することであつたこと（当時の実作をみよ）、そしてそれは最後の長編小説『カンガルー・ノート』にまで大切な初心として脈々と生きてゐることは（例へば第6章「風の長歌」と最終章「人さらい」の章）既に諸処既述の通りです〔註8〕。

[註8]

『『カンガルー・ノート』論(1)』(もぐら通信第66号)より、この安部公房の初心を引用します：

「0.はじめに

『自作再見——『密会』』といふ、これは多分出版社の、作家による自作再見といった連載物の問いに答へた短文ではないかと思はれますが、この文章の最後に次の言葉があります。(全集第29巻、227ページ下段)

『密会』の最後で作者は虚構の世界で「ぼくはその幻影の愛玩動物みたいな少女を抱きしめて、ただやみくもに病院の地下の迷路を彷徨し続けた。」と書いた後に続けて、

「その迷路の床に、「明日の新聞」が落ちていた。電池の切れたマイクに向かって、鼻水まじりに訴え続ける。
「助けて下さい、絶対にいい患者になることを誓いますから」

そしてどうやら『カンガルー・ノート』は、その「明日の新聞」の内容ということになるのだろうか。五十年もかかって歩き続け、まだ迷路からの出口の予感さえない。」

この文章の書かれたのは、1991年12月15日、生年1924年を単純に引き算すれば、安部公房67歳といふことになります。この歳から50年を此れも単純に差し引くと、1941年、安部公房17歳といふことになります。全集第1巻の最初の作品が『問題下降に依る肯定の批判』が1942年12月9日付ですから、この「五十年もかかって歩き続け」といふ言葉は、安部公房が遅くとも十代の後半、成城高校時代に文学に志してから50年といふ意味になります。

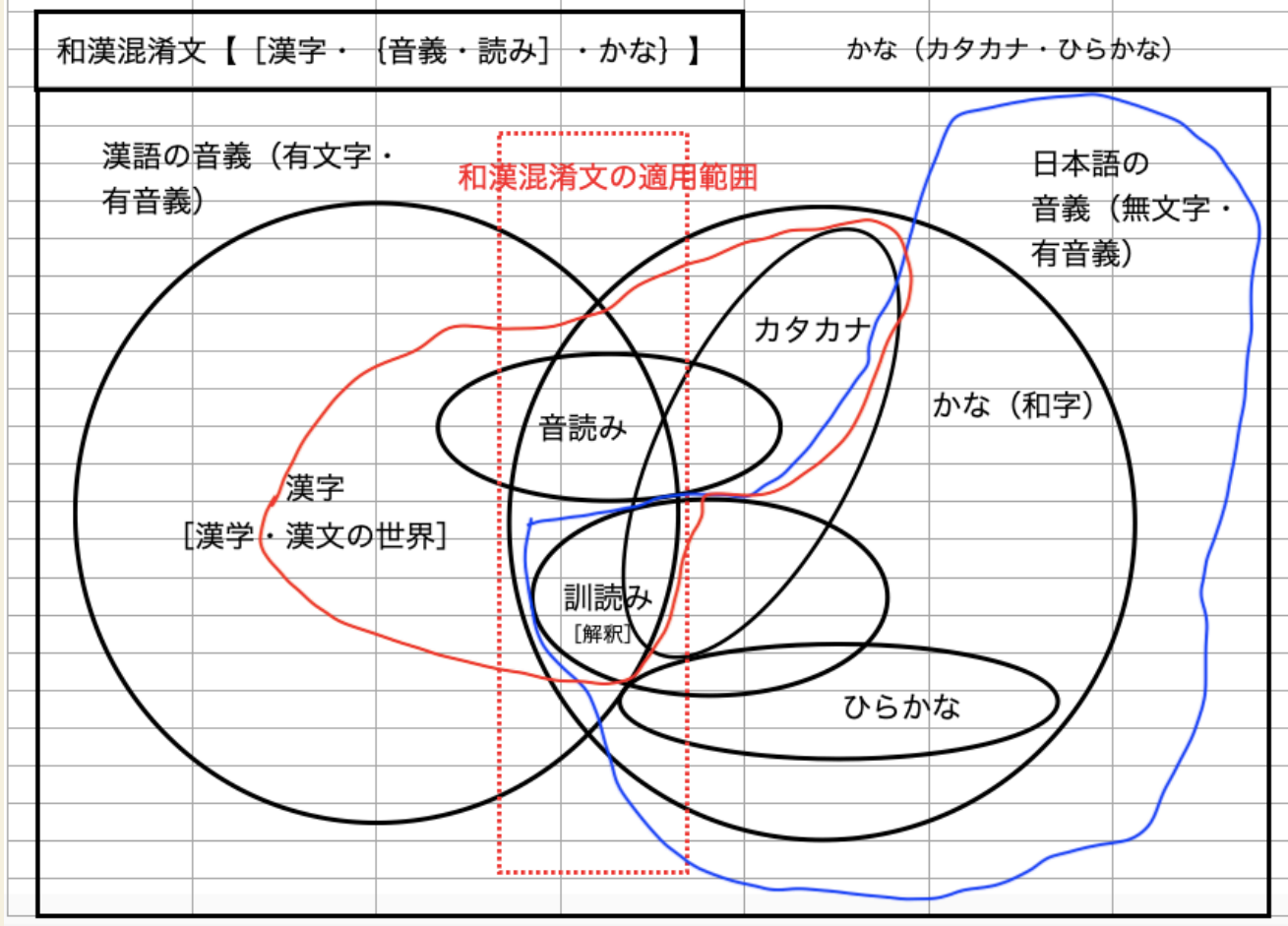
「明日の新聞」[註1]の内容とは何か、それは一体どのようなものなのか。このことを論ずるのが、この『カンガルー・ノート』論といふことになります。

[註1] 「明日の新聞」といふ超越論の、主人公が世界の果てに至ると配達される新聞については、『安部公房の奉天の窓の暗号を解読する~安部公房の数学的能力について~』(もぐら通信第32号及び第33号)、「『赤い繭』論」(もぐら通信第51号)、「『魔法のチョーク』論」(第52号)をお読みください。この論考でも「5. 1. 2 安部公房の幾つかの文章(テキスト)を超越論で読み解く」でお話しします。」

さて、この和漢混淆文の構成要素である文字の分類を更に集合論のベン図で表して、それぞれの要素の意味の適用範囲の領域に線を赤・青・黒の色で引いて仕分けると下図のようになります。

2020/05/30
岩田英哉

和漢混淆文【〔漢字・〔音義・読み〕・かな〕】の構成要素の関係



私たちが普通和漢混淆文と呼びならはしてゐる文字の構成要素と要素相互の関係は上図の通りですが、これを次のように文字に転換して転記することができる。

- (1) 漢字・音義・読みの集合
- (2) かな・音義・読みの集合

上記(1)を示すのは上図の赤い線で囲つたものであり、上記(2)を示すのは同じ図上で青い線で囲つたものです。後者、即ち図上で青い線で囲つたものの全体は、私たち日本人の言語である日本語の意味の世界で、ここに元来は文字はなく音義だけの世界であり、本質的には私たちは今も此処に生活して生きてゐるのであり、これは太古以来変はらぬ私たちの言語生活の世界です。そして、既知の通り、漢字がやつて来てから用意周到に考へを考へに重ねて漢字とかなの習合を私たちは果たした。これは『縄文紀元論』に明らかにした通りの、カタカナ（片仮名）とひらかな（平仮名）の、磐座と注連縄の、シロ（代）と一筆書きの、実に見事な文字と意味の集合でした。即ち、「日本語の音義（無文字・有音義）」とあるのが、日本民族にとつての此の集合の基礎的な階層です。この階層は縄文語の文法の上に載つてゐる。

そして、他方「漢語の音義（有文字・有音義）」の世界がある。これは文字としては漢字の世界であり、漢学と漢文の世界である。これが赤い線で示した領域で、これが、かなの文字であるカタカナとひらがなとして日本語の音義の上に載つてゐる。日本語と漢語の音義の共通集合が、和漢混淆文です。この文の形態は、それぞれの音義の上に載つたそれぞれの文字のあることによつて、漢字の音読みと訓読みの二つの読みがあります。

以上のことを普段は無意識に私たちは和漢混淆文を楽々と書いてゐる。これが（１）漢字・音義・読みの集合と（２）かな・音義・読みの集合の掛け算（共通集合）と足し算（各々個別の集合を含む全体）の関係といふことになります。

ある時私は確か新宿の紀伊國屋に行つて漢和辞典の棚へ行き、そこにある全ての漢和辞典の序文を読んで、漢学の専門家の書いた編纂方針を調べたところ、日本の漢学者・漢字学者には次の二通りの型（タイプ）のゐることを知りました。これは見事に二つに分かれてゐた。

（１）一つは、漢字は長い年月日本人の生活に馴染んでゐるとはいへ、やはり本来は外国語であるから外国語として取り扱い此の辞書を編んだといふ者、

（２）もう一つは、これと正反対の立場で、漢字は文字としてはこれだけ長い間日本人によつて使はれて来たのであるから、日本語の一部として考へて此れを編むといふ者

この二つの立場のいずれが正しいかと問へば、その時も棚の前で、今も此の文章を書きながら、やはり（１）の立場が正しいと考へる。何故ならば、後者（２）の考へでは、学問として及ぶ範囲が上図のうちの「漢学・漢字の世界」の中で赤い線で示された範囲までに留まり、それ以上の漢語の語彙の全体に及ぶことがなく、従ひ、漢学または支那学もしくは支那語学と呼ぶに値する学が成り立たないであらうからです。江戸時代に荻生徂徠と云ふ人などが学問の範囲を考へた時には（１）として考へたことが事実ですから、私は此処までやらねば海外の文物を入れて嚙下咀嚼して自分のものとなし、しかして日本人全体のものとなすことはできないと考へる。この姿勢の最たるものは、外国人の書いた手稿（マニュスクリプト）を直接原稿に当たつて原文を読むと云ふことです。日本には此のやうな学者のゐることを私は知つてゐますので、印刷された文字を読んで作家・作品を論ずると云ふことが安心してできるのは、このやうな専門家の存在を抜きには考へることができません。此れをヨーロッパでは文献学と呼んでゐます。

さて、安部公房の話です。

4. 漢字は中間項である

安部公房は上図のうちから、貝殻草の漢字をカタカナにして俳優に読ませるといふ実験をしてゐます。この場合、この作家は漢字を数学用語を使つて（と云ふところは如何にも数学の

達者であつた安部公房らしいのですが）、漢字は中間項だと言つてゐます。安部公房が此の時考へてゐるのは、言葉とイメージ（形象）の接続と変形であり（topologyは接続と変形の数学であることを思ひ出して下さい）、このために漢字で表される音義がある筈であるが、この接続と変形が円滑に行かないのは中間項である漢字と云ふ文字が「漢字のもつイメージの力にたよつて、伝達の努力をおこたってしまう」と云ふ邪魔をしてゐるからだと言ふのが、俳優たちに読ませてみての結論だと云ふのです。象形文字として漢字の持つ文字の視覚的な形が音義の伝達を俳優をして之を怠らしめるといふことです。（この漢字といふ文字のもたらす俳優の伝達努力の怠惰といふ問題は次の章で更に論じます。）そして、この漢字のことを「言葉と実体の「中間項」としての漢字の形」と呼んでゐる。

この場合、安部公房が実体と云ふのは、言葉が形象であり形象が言葉であると云ふ等価交換関係のある概念のことであり（安部公房の文章のどの一行にもtopologyが隠れてゐる）、上図でいへば「和漢混淆文の適用範囲」のうちから漢字を抜いて、貝殻草の一行を

- （１）漢字無し・音義・読みの集合
- （２）かな・音義・読みの集合

この二つの集合にして、そして役者に読ませようと云ふのです。

さうすると、もし漢字と云ふ中間項が無かつたら、貝殻草の一行は次のやうになる。

5. もし漢字と云ふ中間項が無かつたら

カイガラソウのにおいを嗅ぐと、魚になった夢を見るという。

この貝殻草の漢字→カタカナ変換によつて安部公房が俳優の発声から排除したいニュートラルの演技のために達成したい（発声は演技の一部であるから）と考へた此のは本文よりそのまま引用すると次の３つのことです。

- 「（１）黙読のリズムにまどわされないこと。
- （２）漢字のイメージにたよらないこと。
- （３）したがって貝殻草ではなく、同じ大きさのカナを並べた、カイガラ・ソウとして読むこと。つなぎの母音をみだりに省略しないこと。」

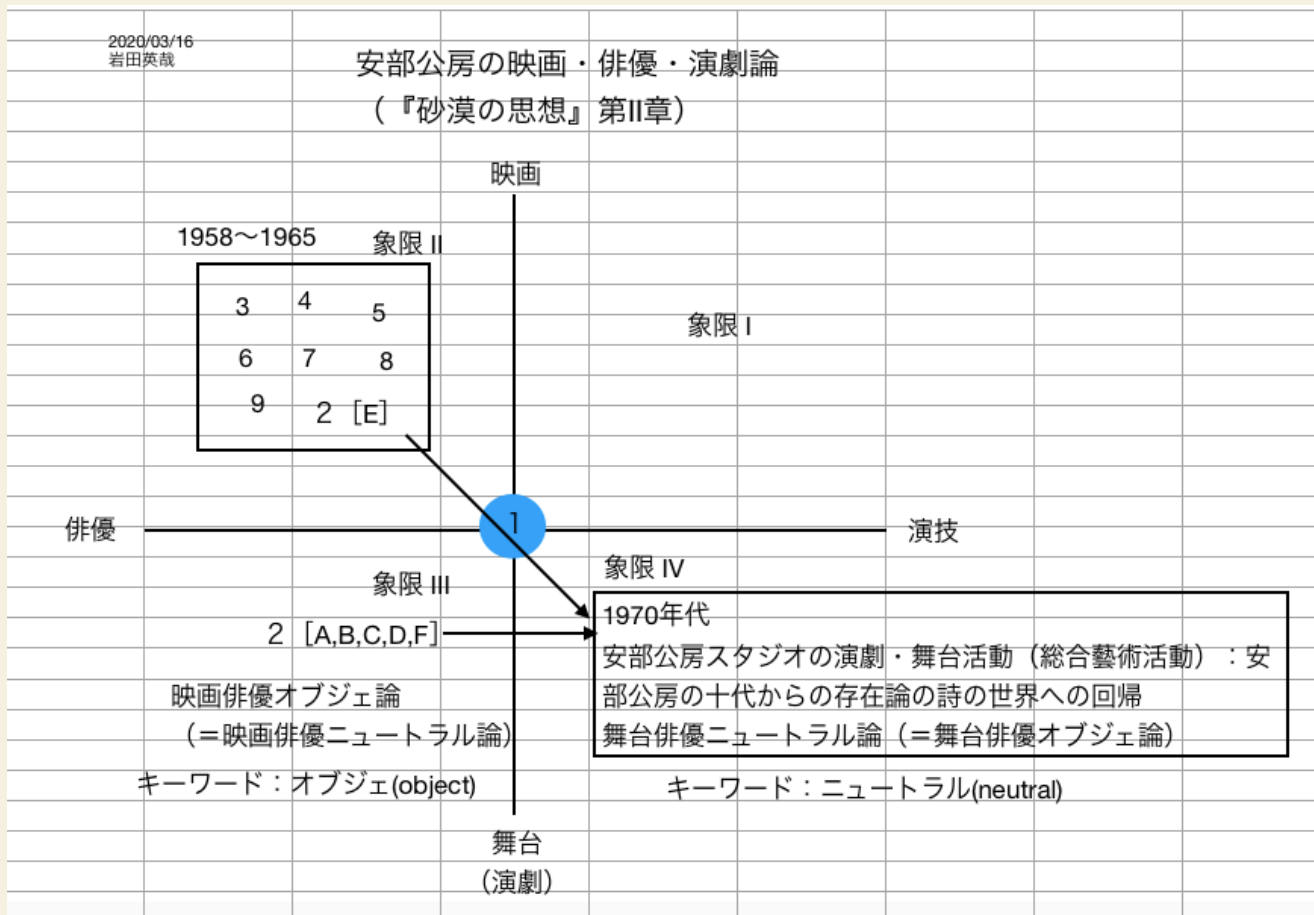
もう少し、漢字といふ文字を巡る安部公房の真意を説明します。安部公房の観察によれば漢字のもたらす発声上の障害は次のやうなものです。私の要約よりも安部公房の声を直に聞いてもらひたい：

「もし、漢字が無かつたとしたら、耳から聞える「貝殻草」は単なる「カイガラソウ」に過ぎないわけである。「雑草」や「海草」のように、日常使用率の高い言葉の場合ならともか

く、「貝殻」と「草」とはめったに結びつかないものなので、「カイガラ・ソウ」だけでは、そう簡単には聞きとれない。しかし朗読役の俳優は、読む前にすでに「貝殻草」という漢字を目にしているため、つい「雑草」や「海草」と同じ調子で読んでしまうのだ。自分にとって「カイガラソウ」という音が「貝殻草」であるように、聞き手にとっても同じだろうと早合点して、つい読むエネルギーを省略してしまうことになる。漢字のもつイメージの力によって、伝達の努力をおこたってしまうのだ。」

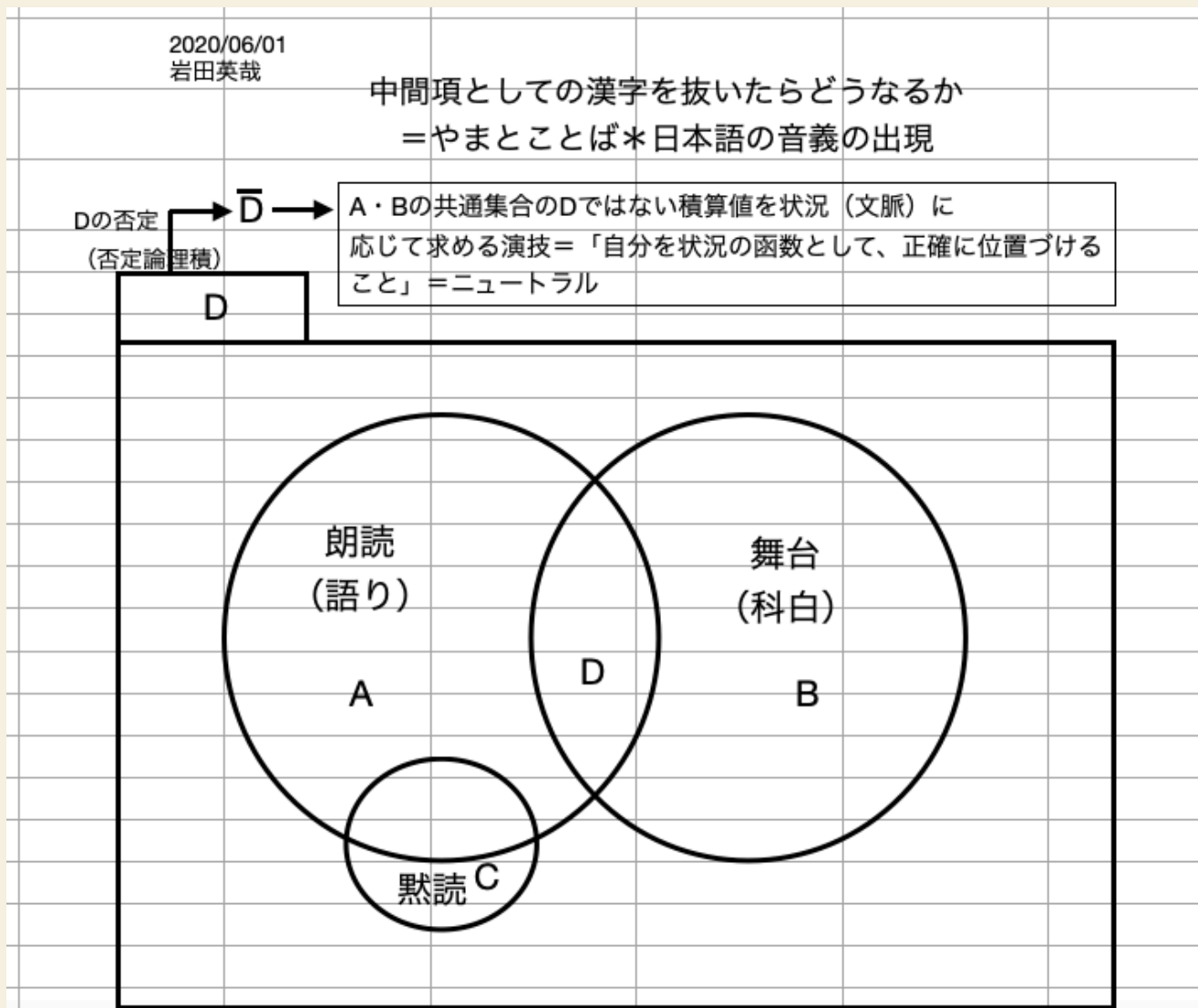
(全集第24巻、421ページ上段)

これは、やまとことばと其の音義の実験である、といふことができる。とすれば、安部公房が貝殻草の一行のニオイを臭いと書かずに「におい」とひらかなで書いた理由も十分にあるのです。その理由はエッセイの最後で明かされてゐます。安部公房は詩人であつたし、依然として此処でも詩人であることを思ひ出してもらひたい。安部公房スタジオの活動は、初期安部公房に回帰すること、諸処既述の通り、狭義にはリルケと自分の詩の世界に回帰することなのです。此処では『砂漠の思想』を読み解いた成果の一つである映画論から「安部公房の映画・俳優・演劇論」の座標を引いて読者の理解を求めたい。



この章の最後に、安部公房が全章上掲図の「和漢混淆文【[漢字・{音義・読み}・かな}】」といふニュートラルの実験で一体何を論理的且つ生理的に生み出さうとしたのかを集合論のベン図と記号を使つてまとめます。要点または着眼点は、漢字といふ中間項を抜き

に直接に音義に接して「言葉と実体」の触発から形象（イメージ）を生理的感覚から生み出して（存在の出現）、生まれたものを観る（存在を観る）、そして存在自体に成ること、このことが役者に舞台の上で起きることです。



安部公房が言語はデジタルだといふは此のことを意味してゐるのであり、これはブール代数と云ふコンピュータの基礎になつてゐる二進数の論理演算の論理です。この論理演算・デジタル変換されたベン図は次章を読んで再読すると一層理解が進む筈です。勿論『第四間水期』を書いた時既に安部公房はブール代数と二進数による記号論理学については詳しく知つてゐた。

このDといふ論理積の値を否定する其の値を求めることは、時間の中では絶えることのない変身の姿となり、この初期安部公房が「転身」と呼んだ連続的・非連続的変形・変身の、安部公房が読み耽つたあの『オルフェウスへのソネット』の主人公オルフェウスの姿そのものの、論理的・数学的（位相幾何学的）な神話的・汎神論的に存在する存在としての主人公の姿となります。役者が、舞台の上で、観客に夢みられ、観客を夢みさせながら。安部公房がリルケの詩をtopologyで読んで自家薬籠中のものとなしたといふのは、このことです。そ

して、このように、安部公房スタジオのニュートラル演技論は、その発展形または応用形、更にまたは地続きのリルケと安部公房の詩の世界を総合藝術としての舞台上で実現することなのです。

6. 黙読と朗読と科白の違い

貝殻草のにおいを嗅ぐと、魚になった夢を見るという。

安部公房曰く「貝殻草にかぎらず、この傾向は漢字一般について見られるもので、その結果、漢字の部分がとかく早口で処理されることになる。しぜん言いまわしに、極端な緩急のリズムがつき、そのリズムは黙読のさいのリズムとそっくりだ。「。」や「、」で必要以上の間をとり、文の出だしに高いアクセントをつけ、漢字（とくに名詞）の部分で駆け足をする。まさに新劇俳優のもつ耳ざわりな言いまわしの癖そのものである。」

このエッセイのはじめの方で、安部公房は此の一行を俳優たちに「なんの指示も与えず自由に読ませてみると、大半の俳優たちが、いわゆる朗読調の読み方をしてしまう。独特のうねりをもった、例の読み方だ。上手に読めば「朗読の時間」風になり、下手に読めば、小学校の国語の時間風になる。どっちにしても表現としてはまったく無力である。」この「奇妙なうねり」が安部公房の「内部にひきおこす抵抗感」を分析して至った結論が、「一般によく言われているように、発声だとか、発音だとか、アクセントだとかの問題だけでなく、より根本的な障害として、漢字まじりのカナという日本語の宿命が作用しているらしいのだ。」といふ結論なのです。これが、ニュートラルといふ演技論の生理的な核心概念を俳優たちに伝えるための障害になるので、このようなニュートラルな朗読をさせるに至った理由です。

この「奇妙なうねり」を、「極端な緩急のリズム」と言い換えてみて、「このリズムは黙読のさいのリズムとそっくりだ。」とも言つてゐるし、これは「まさに新劇俳優のもつ耳ざわりな言いまわしの癖そのものである。」（これで何故安部公房が新劇風の演技を嫌ふのかの理由が解ります〔註9〕）ので、要するに、朗読であらうと黙読であらうと、この「奇妙なうねり」や「極端な緩急のリズム」を取り除くことが、安部公房スタジオの理想の舞台を科白廻しに於いて実現するためにはどうしても必要といふわけで、俳優に対して次の三箇条の注意書きを掲げてゐます。これは当時そのまま俳優たちにも口頭で直接言はれたに違ひない。貝殻草の一行といふ例題を科白として発声する場合の注意事項です。

「一黙読のリズムにまどわされないこと。

一漢字のイメージにたよらないこと。

一したがって貝殻草ではなく、同じ大きさのカナを並べた、カイガラ・ソウとして読むこと。つなぎの母音をみだりに省略しないこと。」

面白いことに、安部公房が何かの対談で「ぼく、その小林秀雄つていふの読んだことがないんだ。」と言つてゐる其の当の小林秀雄が『金閣寺』を刊行した直後の三島由紀夫との対談『美のかたち—『金閣寺』をめぐる—』で、新劇の科白は言葉が生きてゐないといつて、新劇の科白廻しについて同じことを次のやうに述べてゐます：

「小説から描写はなくなった

(略)

小林 (略) この間、感心したのはね、僕は名前知りませんけどね、大阪のほうの芝居ですよ。それはなぜ感心したかという、大阪弁でやってたからでね、大阪弁でやると、とっても面白いんですよ。

三島 それはフォームじゃないかな、言葉の。

標準語・現代・言葉

小林 台詞が生きてるんですよ。全部、言うことが生きてる。ところがね、近頃の新劇で使つてゐる台詞は、あれ、標準語でしょ、あの標準語っていうのは、今のところ死語だね。僕、大ッ嫌いなんですよ。映画もそうですよ。映画の台詞ね、これ、生きてない。その元凶は誰あたりか、僕にはよく解らない。小山内薫じゃないかと思つてゐるんだけどね、あれから発した芝居語というものがあるんだよ。これはいつまで経つても熟さないね。ますます悪くなっていく傾向があるね。あれ、一種のエスペラント語だよ。みんな同じ台詞を使いやがるんだな。それで死んでるんだ、みんな。

三島 死んでます。日常会話に近づけようとすればするほど、死ぬんです、言葉は。」

「同じ大きさのカナを並べた」といふところが、これも如何にも安部公房らしい発想で、私は原稿用紙に書かれた安部公房の文字を思ひ浮かべました。『箱男』の原稿です。体系的に一つの原理を生理的感覚まで落とし込んで生活する安部公房ですから、この文字もまたニュートラルに書かれてゐる。この文字の大きさと並び方は、安部公房によるバロック藝術論に通じてゐます。

うにせり出しているのて、上からは見えな
 ったのだ。五軒に軒は、花屋か果物屋かの
 で、床散とし、病院相手の売方のうか
 りる。中へり、再び高台側に抜ける道が
 街の中へり、耳の穴に蘭の花を押し、地
 蔵が立って、排水口からあふれた水が、
 その足元に泡だらけの地をついて、
 悪い臭いの空に似たように入
 ちがは、左で二階建て、中央に入
 口があり、左右で二階建て、中央に入
 らに上下に割って、四階建て、使用して
 うだ。旧式な造りで、表面をさうつか
 せたモルタルで、小ぶりの窓、太い
 木枠で囲ってある。医者の職員の住宅
 りが、これに、殺風景で、わが曲った自
 転車や、昔の何か小動物でも飼ってら
 い鳥籠型のひしや、極の残骸などが、す



7. 貝殻草の一行の朗読は何を役者に要求するか

さて、前の章にあるやうに「緩急のうねりを取ったあと、同じ例題によって、集中点を見つけだす練習をしてみた。肉体表現のニュートラルに対応するものの発見」のための練習として安部公房は役者たちに質問をして、「前にあげた例題の朗読のさい、意識を集中させるとしたら、どの言葉を選ぶべきだろう？」と尋ねます。此処からが演技に直結する理論篇の本番といふわけです。そして俳優A,B,Cの回答はいずれも安部公房を満足させなかつた。

ここまで安部公房の文章を読みながら考へた私の「ニュートラルに対応するものの発見」即ち一体どこに「朗読のさい、意識を集中させる」か、それはどの言葉かといふ問いに対する答へは、次の二つのことでした。

(1) 存在になるのであるから、やはり隙間から生まれ出る貝殻草の「においを嗅ぐ」ことではないか？

(2) topologyで考へたら、二次的・二義的な文にこそ意義が宿り、即ち一次的・一義的な位置にあるものを支配するのであるから、それは主文ではなく条件文であり従属文であるとすれば、やはり上記(1)に落ち着くであらう。何故なら条件文がなければ主文は存在しないし、そして条件文が文字に書かれてみなくとも一行の文脈をいふことのできる条件文は常に例外なく余白・沈黙・行間に隠れて《存在》してゐるからです[註10]。

〔註10〕

「『周辺飛行』論（5）：ところで君は——周辺飛行2」（もぐら通信第92号）より引用して、このニュートラルといふ概念について科白の問題として、そして何故「におい」が意識を集中する焦点になるのかを理解してもらいたい。この引用の例では、（ ）の中の《箱男》の科白が、疑問文か、相手の知らずにみて意識してゐないものへと意識を向けさせる科白になつてゐます。さう考へれば、疑問文はこのやうな科白の一つです。

「最初の7つの科白から、此の科白の間に潜む「直接観察の対象となつてはいないが、あらゆる場面につねに君臨している、特権的な重症患者一名」のセリフを想像してみませう。さうするとわかることは、この第三者のセリフが、医師と看護婦の科白の接続になつてゐることです。安部公房の22歳の論文『詩と詩人（意識と無意識）』の論理からいつて、此の第三の客観、即ち存在の接続は二人の科白の上位接続(conjunction: コンジャンクション)になつてゐることが望ましい筈です。まづ最初に二人の会話から。

「——で、それから？
——喉が、からから……
——そのコップ、ひびが入っているぞ。
——平気……
——それで？
——脱いだわ。
——問題は、脱いでいるあいだ、どの程度に暗かったのかということさ。」

これに第三の客観たる「直接観察の対象となつてはいないが、あらゆる場面につねに君臨している、特権的な重症患者一名」の沈黙のセリフを二人の科白の間に（ ）の中に入れて挿入します。果たしてうまく行くかどうか。

——で、それから？
（どうしたの？）
——喉が、からから……
（ほら、そこにコップがあるよ。）
——そのコップ、ひびが入っているぞ。
（大丈夫？）
——平気……
（落ち着いたわ。）
——それで？
（どうしたの？）
——脱いだわ。
（それは問題だよ。明るかったの？）
——問題は、脱いでいるあいだ、どの程度に暗かったのかということさ。

この会話の科白のやりとりが、実は間に《箱男》といふゴムまりを挟んだ二人の会話であるといふことです。この科白のアクション（行動）を実際の演技といふ行動（アクション）に落とし込むために安部公房の考案した、ゴムまりを使つた訓練については『ゴム人間のことなど——周辺飛行15』にてお話しします。この章は topology に基づくニュートラルといふ演技概念の理論編です。この理論の上のやうなゴムまり人間を挟んでの二人の会話が成り立つといふ訳です。

かうして科白といふ科白の隙間に箱男が遍在する。あるいは砂の女が穴（凹）の中に遍在する。ここに存在するものは、上の（ ）内に入れてみたセリフがさうであるやうに、男でも女でも良い、ニュートラルな何か、即ち《存在》であり、《存在》が話すのである。ここまできると、汎神論的存在論としては、自然に囲まれて生き、草木が語りかけて来る私たちの生活となんらか変はらない。」

この意味でも、私の安部公房の科白についての理解は正しかつた。然り、安部公房の言葉を、これも少し長めですが次に更に引用するのは、ニュートラルといふ概念についての、作家自身による解り易い説明になつてゐるからです。俳優A,B,Cの回答についてえ、

「あいにく右の解答は三つとも、集中点の意味をとりちがえている。ニュートラルな状態が、単なる中立状態ではなく、集中の結果としておきる周辺部分の緊張の解除だったことを、もう一度よく思い出していただきたい。当然のことだが、心理や、イメージや、気分などでは、集中点になれないのだ。情況との生理的なかわり合いを、生理的にとらえなければならぬ。情況はなにもドラマだけにではなく、朗読という形式のなかにだってあるはずだ。

「貝殻草のにおいを嗅ぐと……」

この全体に関して言えば、生理的に集中できるのは、まず「におい」だろう。貝殻草のにおいを、現実のものとして喚起してみるのだ。もし集中できれば一実際に臭覚が働きはじめれば一しぜん好ましい匂い、あるいは嫌な臭い、といった生理反応が伴うはずである。さらに、そこを集中点にすれば、おのずから後段の「魚になった夢をみるという」の言い方も生理化されるはずである。」

（全集第24巻、422ページ上段）

この次に続けて曰く「しかし「におい」だけがこの例題の集中点なのではない。この言葉を、誰が誰に向って伝えようとしているのかという、関係の集中点もある。」と言つて、俳優が文脈（コンテクスト）によつて此の集中点を幾らでも変幻自在に自由に表現できなければならないと言ふ。その例を三つ挙げてみて、警告、意地の悪さ、よろこびの共有についての短い解説をしてゐる。さて、

「繰り返すようだが、ニュートラルとは単なる中性化ではない。エネルギーをゼロにすることではない。自分を情況の函数として、正確に位置づけることなのだ。その位置を決定するのは、どんな場合でも、かならず生理なのである。」

これが時間と空間の交差点に常にゐて無機物にも有機物にも変形できる安部公房スタジオの俳優のあるべき姿であり、現存在（時間の中の存在）と存在（空間である何か）の交差点に立つ俳優の理想の姿である。そして、発声・朗読・科白について言葉を続ける。

「一見まったく中性的に見える朗読においてさえ、なかに踏み込んでみれば、生理的集中点

が存在する。その集中点の発見が、朗読を表現として成り立たせるための基本であり、この点に関しては他の舞台形式となんら変りはないはずなのだ。」

この「生理的集中点」の存在の発見があり得るならば、朗読も科白も「表現として成り立つ」のである以上「なんら変りはない」く、またさうであれば、黙読も朗読も科白も同じだと云ふことになります。逆にいへば、これが安部公房が表現になつてみるとかなつてみないとか言ふことがあれば、その判断の規準（クライテリア）なのです。これが、18歳の安部公房が成城高校の校友会誌『城』に投稿して掲載された「問題下降に依る肯定の批判―是こそは大いなる蟻の巣を輝らす光である―」中に問ふた問「一体座標なくして判断はあり得ないものだろうか」といふ問に対する答であるのです。この論文の終はりの方に来て、安部公房は其の方法について書いてゐる。

「動かなくてはならない。そして動かさなければならない。手を、指を、そして目と鼻を。今こそ君は自由なのだ。」

これが、安部公房の考へるニュートラルであること、即ち自由の意味であるのです。

「貝殻草のにおいを嗅ぐと、魚になった夢を見るという。」から「カイガラソウのにおいを嗅ぐと、魚になった夢を見るという。」へ。

このエッセイの最後に、安部公房は面白い実験を記録してゐる。上の「カイガラソウのにおいを嗅ぐと、魚になった夢を見るという。」を俳優たちに共有させる、さうして此の一行の中の一語を語の構成要素ごとに分けて、例へば「サ・カ・ナ」を三人で繋いで発声させたことを書いてゐます。この場合「サ+カ+ナ」ではなく、「サ+アカ+アナ」になるのだといふ。〔註11〕「さらにこの練習には、俳優たちを内面的に一体化する効果もあるようだ。むろん真のねらいは、もっと遠くにある。その成果については、正直なところ、まだよく自身にもよく分かっていない。」と、最後のここを読むと、前回転載した全集未収録の安部公房の演技指導の『基本的な演技の質の統一』と題したメモは、このスタジオの俳優たちが「基本的な演技の質の統一」を成し遂げるための、このやうな文脈、即ち「言葉によるイメージを舞台化するところみ」（次の「周辺飛行25」の前書きとして書かれてゐる一行）に於けるメモであることが、よく解ります。

このメモとメモに基づく訓練が、言葉の喚起するイメージの舞台化の、後々の「イメージの展覧会」になつて結実するのです。

〔註11〕

この複数人・貝殻草連唱によつて安部公房の得た「幾つかの発見はあった。」日本語に関する発見の一つの問題は「日本語の母音つなぎのむつかしさだ。」と言つてから（原文傍線は傍点）、「サ+アカ+アナ」の話になるのです。また、この日本語では母音の繋ぎが難しいことについては『地球儀に住むガルシア・マルケス』

に、角田忠信著『日本人の脳』を元に次の発言がある（全集第27巻、126ページ上段から下段）：

「角田忠信さんの『日本人の脳』によると、これは日本語の構造に関係があるらしい。つまり母音だけで意味の形成ができるため、母音も左の言語脳で受けてしまう。現在分かっているところでは、日本人とポリネシア人だけで、それ以外は全部右脳で受けている。子音の文節だけを左脳で受けている。なぜ日本人とポリネシア人だけが、母音も子音もひっくるめて左の言語脳で受けてしまうのだろうか。たしかに日本語には母音だけの言葉がある。たとえば角田さんの本に出てくる有名な例だけど、O（オー）という字を四つ並べてみて下さい。日本人とポリネシア人以外には、言葉というよりうなり声にしか聞こえないかもしれない。でも日本人にはちゃんと意味を持つてくる。「王を追おう」となるでしょう。子音の文節なしに母音だけで意味を持つ。たしかに特異現象です。どうしてこういうことになったのかはよく分からない。そう言えば日本語をしゃべるとき、子音を省略してしゃべってもだいたい分かりますね。試してごらん下さい。たとえば「学校に行こう」から子音を消してみる。だいたい意味が通じるでしょう。ところがヨーロッパ語でも中国語でも朝鮮語でも、逆に母音を省略してもだいたい分かる。」

ここまで書いて来て気づいたことは誠に遅きに失したことでありますが、安部公房は以上の全ての話の見出しとして、存在論の記号をつけて、これから話すことは皆存在の話だよと云ふ意味で、『例題』と題してゐるのです。勿論、この看板を掲げた後の地の文では、初期安部公房の達成した所に従ひ『』を取り払つて、地の文の中ではみな単に例題と書いてゐるわけですけど。

8. 最後に再帰的な問いを：一体何故貝殻草は貝殻草と呼ばれるのであろうか？貝殻草とは何か。何故貝殻草は貝殻草であるのか？

最後に些（いささ）かバロック的に長い見出しを提示して、この問いに答へたい。安部公房の世界は世界文学の視野に置いて眺めると、バロック文学の世界です。奉天といふ大都市は、大日本帝国の首都東京のとても及ばぬ本物の都会であり都市（City）でした。

問：一体大陸の奉天といふ当時の帝都東京よりも遥かにヨーロッパのバロック様式で幾何学的に構築されてゐた都市と呼ばれるに相応しい都市奉天で育つた安部公房が海の中に生まれ育つ海草を、しかも貝殻といふ形象と海草といふ形象を掛け合はせて創造するといふことがあるだろうか？あるとしたら、それは一体どのような経緯であり得るものか。

この問を立てて自問自答してみると、答は即座にやつて来たのである。リルケです。そして私の思考の順序とは逆に結論を先に述べると、安部公房の世界で海といへばリルケなのです。海とは勿論、存在の海であり、従ひ『海』である。かくして思ふままに海に関係し海の登場する小説作品の名前を挙げれば、読者は皆ご存じ、初期から最晩年に至るまで、

『洪水』『水中都市』『第四間氷期』『箱男』『方舟さくら丸』『カンガルー・ノート』

読者に於かれては、まだ他にも幾つも名前を挙げるができることでせう。

問：しかし、一体何故貝殻草は貝殻草と呼ばれるのであろうか？貝殻草とは何か。何故貝殻草は貝殻草で再帰的にあるのか？

答：それは、貝殻は二つに割れてみて割れ目があり、凹の形象、即ち陸地ならば凹（窪み）であるのに相当する同じ意味を安部公房の世界で持つてゐるからだ。貝殻草は存在の裂け目、存在の割れ目、存在の窪みを持つ海草なのである。その割れ目には存在が宿り、そこから存在が生まれ出る。即ち、繰り返し再帰的に存在から存在が常に新しく生まれ出る。『箱男』の当該章によれば、貝殻草は「いまぼくが腰を下ろしている、この石積みの斜面の、隙間という隙間」から生まれでて、その隙間を「線香花火のような棘だらけの葉で埋めているのが、どうやらその草らしい」草、即ちAls obの草、即ち存在の草《貝殻草》なのです。さて、さういふわけで、

貝殻草のにおいを嗅ぐと、魚になった夢を見るという。

リルケ全集を通覧すると貝殻といふドイツ語の出てくる箇所は4箇所あります。その中で、貝殻草の形象そのものであるといふことの出来る出典たり得る貝殻は、いふまでもなく例によつて例の如くといひたい位に（こんな言ひ方は安部公房に失礼であらうか）『ドゥイーノの悲歌』であり（『デンドロカカリヤ』に「第九の悲歌」からの詩行が引用されてゐたことを思ひ出してもらひたい）、この中の「第三の悲歌」に此の貝殻が出てきます。以下、拙訳です。いつもならつける【解釈と鑑賞】はつけません。なるほどこんな詩かと思ひ、あなたの思ふ通りに理解してくださつて結構です。それにしてもリルケの原文の一行は息が長く、入籠構造に何階層にも形式の上でも意味の上でも階層をなしながら、幾つもの掛け言葉の連鎖を懸けながら、しかし一息となつて、一段落を形成してゐる。十代の安部公房は此れを理解した。

「第3の悲歌」

一つは、愛される女を〔訳者：マリアとは言つてゐない〕歌ふことである。もう一つは、ああ風よ吹け吹いてくれ、あの隠された罪ある、血の河の神を歌ふことである〔訳者：この神とはネプチューンといふ海神のこと〕。その愛された女性が遙か彼方から認識して知つてゐる神（God）を歌ふことである、即ち我が子を〔訳者：イエス・キリストとは言つてゐない〕歌ふことである、この若者が愉楽の天主（Lord）即ち孤独なるものの内部から外部へとしばしば、再たしばしば恰も（als ob）愉楽が存在しないかの如くに其の乙女がまだ（苦しみを）和らげ鎮める前に、ああ、孤独といふ知られざるものから滴り落ちてゐるといふのに構はずにそのままに、神（God）の其の首を高く掲げた其の若者（我が子）を歌ふことである。しかし一体その若者（我が子）自身がその愉楽の天主（Lord）について何を知つてゐるといふのか。叫び声を上げながら、夜を、限りない混沌と混沌に立つあの夜を歌ふことである。おお、血そのものであるネプチューンを、この神の恐ろしい三叉の銚（ほこ）を歌ふことである。

おお、傷ついた（割れた・裂け目のある）貝殻の内部から外部へと出て来た、ネプチューン

の胸の其の暗い夜の風よ。聞き耳を立てよ、夜がどんなに自らを槽（ふね）となし、そして自らを中空となすかに。その音に聞き耳を立てよ。お前たち夜の星々よ、愛する男の愉楽とは、男に愛される女の顔（かんばせ）といふ場所でお前たち自らの中から生まれて来ることなのではないのか？暗い夜の風の内面の洞察とは、お前たちの純粋な顔の内部へと入って行って、純粋な天体の内部から外部へと出てくる其のやうな洞察力を、夜の風はもつてゐるのではないのか？」

[原文]

Die dritte Elegie

Eines ist, die Geliebte zu singen. Ein anderes, wehe, jenen verborgenen schuldigen Fluß-Gott des Bluts. Den sie von weitem erkennt, ihren Jüngling, was weiß er selbst von dem Herren der Lust, der aus dem Einsamen oft, ehe das Mädchen noch linderte, oft auch als wäre sie nicht, ach, von welchem Unkenntlichen triefend, das Gotthaupt aufhob, aufrufend die Nacht zu unendlichem Aufruhr. O des Blutes Neptun, o sein furchtbarer Dreizack.

O der dunkle Wind seiner Brust aus gewundener Muschel. Horch, wie die Nacht sich muldet und höhlt. Ihr Sterne, stammt nicht von euch des Liebenden Lust zu dem Antlitz seiner Geliebten? Hat er die innige Einsicht in ihr reines Gesicht nicht aus dem reinen Gestirn?

貝殻草のにおいを嗅ぐと、魚になった夢を見るという。

「石積みの斜面」の隙間から、その石の斜面の割れ目を通じて内部から外部へと貝殻草は出てくる。リルケの詩では夜の風の吹き出る音を聴けとなつてゐるが、安部公房の此の一行の詩では貝殻草が出て来て、しかも独特の臭ひがあつて、この存在の臭ひを嗅ぐと、嗅ひだものは「魚になった夢を見るという。」「という。」といふことですから、実は此の一行は無限に「といふ」入籠構造（無限に続く間接話法）になつてゐて、リルケの詩のやうである。つまり、前の現実と後の夢が互ひに入れ違つて、入れ替はり立ち替はり、入籠構造になつてゐる。この夢と現実の入籠の感覚を、安部公房は此の周辺飛行で「二重感覚」と呼んでゐます（全集代24巻36ページ下段）。『終りし道の標に』にも書かれてゐる二重感覚です [註12]。この覚醒と夢見の繰り返しが、この章の見出し《それから何度かぼくは居眠りをした》の一行の、これも安部公房にとつては詩の、一行です。句点といふ終止符がないのは、これが此のやうに夢か現（うつ）かの世界であるからです。さうすると「貝殻草のにおいを嗅ぐと、魚になった夢を見るという。」といふ一行は現実の世界であるといふことになります。しかし、これを《貝殻草のにおいを嗅ぐと、魚になった夢を見るという》とすると、存在論の世界の一行になつて、主語のない此の一行の夢か現かの世界にあなたも「いつの間にか」「どこからともなく」といふ具合に超越論的に安部公房ワールドの中に、頭をと

らぬ狸に殴られてアンテン君ならずとも、「既にして」「気がついたら」入ってしまったてゐるといふことになるのです。

[註12]

『終りし道の標べに』には此の二重感覚が、次の5つの箇所で書かれてゐる：

(1) 子供と大人（神話と現実・臆病と勇氣）：全集第1巻363ページ上段

「翌年には友人に誘われて八路軍の青年将校になった。本当なんだよ。けれど勿論、あの幼い頃の環境や臆病な性格が作り上げて、感受性の中心に浸込ませた神の童話はやはり消えずに、絶えず二重の判断や意志になって表面に現れ僕を苦しめたものだ。」

(2) 遠近の人探し（憧れと現実・尊敬と憎悪）：全集第1巻363ページ下段

「そして其の職を利用して僕は本格的に房大爺を探し始めたのさ。それはそうと僕は陳を色々しらべるうちに、次第に奴の人間に興味を持ち始めたんだ。考えて見るとそれは黨員という立場からの興味ばかりでなく、どうやらあの二重感覚の一方がさかんに触手を動かし始めていたような気もするのさ。」

(3) 兄と妹（キリスト教の信仰と愛）：全集第24巻364ページ下段

「僕は妹を勿論愛していたよ。けれど、妹はその恐るべきクリスチャン独特の押しつけがましきで、僕にまでそのきせいの信仰を押しつけようとするんだ。実際たまらなかつねえ、考えて見てくれよ。僕はあの二重感覚を人に見られたくなさ一杯で、どんなに悩んで来たか考えて見れば……ねえ、そうじゃないか、妹のやり口はまるで、傷をなおすのにその傷口に指をつっ込んで引掻きまわしているようなものだからねえ。たまったもんじゃないよ。」

(4) 男と女（憧れと神・象徴と我欲）：全集第24巻365ページ上段

「そして青春を独占しようという我儘な欲望から、まず妹につき込まれた香春の中の神と闘いを開始したような訳さ。だが勿論これはとんでもないことだった。なぜって、僕自身があの二重意識に苦しんでいたんだからね。」

(5) 主義と情慾：全集第24巻369ページ下段

「ふん、一体何を話そうとしていたんだっけ。つまり、僕はそれから、そうだよ。ひたすら自分の二重意識の愚劣さを痛感したのさ。そうじゃないか。僕はね、第一、主義なんていうものを持てる人間じゃないんだよ。」

ここまで此の「周辺飛行24」を書き終えてみれば、このたつた全集で3ページ少々量の文章の中に、如何に安部公房の人生の全てが凝縮してゐるかといふことを私たち読者は知るに至るのです。私のお願いは、当時安部公房の薫陶を受けた俳優の皆さんに、自分が当時受けたものがなんであつたかを言葉で日本語の文字で書き記して、後生と後世のための貴重な資料として、仮令（たとへ）一行でも二行でも良いから演技論として自分の言葉で指導を受けた演技者の側からの言葉を残してもらひたいといふことです。最後に「贗月報」より石沢秀二氏（「演劇評論家・演出家」）[註13]の次の言葉を引いて「贗魚のエピソード」の周辺飛行を着地させることにします。インタヴューアーは安部ねりさんです：

「安部スタジオの最後のあの「仔象は死んだ」ね、スタジオに行った連中は、それなりに演劇的に大きな仕事をしたと思いますよ。安部先生はシンセサイザー使ってご自分で音楽おつくりになったじゃないですか。そして安部先生にとって、言葉ってのは何だったんだろうってことをつくづく思いますね。歌舞伎や何かは一種ヒステリカルなものだっておっしゃ

り方するじゃないですか。それで抽象度の高い音声とか、それから属性を排除して抽象された演技、動きの核というようなものを求められていった。そういう演劇で求められたものと、小説の、テーマとか何とかではなくて、その表現の核となるその言葉というものとは、もしかすると、安部先生の中では同んなじだったのかしら、ということをおもったりもするんです。

そう僕が感じたのは「緑色のストッキング」の田中邦衛さんの演技なんです。（略）

最近思うのは、安部先生の基本としたニュートラルというような考え方なんてものは、もっともっと広がっていいんじゃないかってことなんです。「友達」とか「榎本武揚」やってる時は、まだテーマというか、共同体と個人の問題とかいうところで掴まえられたじゃないですか。けれども安部先生が安部スタジオでご自分で演出して作っていかれるようになると、安部先生の中には、何て言うのかな、ドラマの表現自体の核の追及ということが、あったんだなということを逆に知ったというか。それはプロパガンダなんかじゃない、その詩人としての資質、イメージの豊さというのかな、たとえば、「友達」はヨーロッパなんかでよく演られるけれども、日本ではアメリカ占領軍という形でも置き換えてできるわけだし、ある流行にのった村八分をするような共同体と他人とかね、いろんな照射の当て方ができる。そういう意味での普遍性のある抽象度の高さが、やはり大事なものだよね。そして遂に「仔象は死んだ」で、安部さんはいわゆるお芝居の台本というようなものは、使わなくてもよくなったんじゃないでしょうか。

[1999.2.22 京王プラザホテル「南園」でのインタビュー]

(『贗月報 安部公房全集20サブノート』文責 安部ねり。全集第20巻付録)

[註13]

石沢秀二氏に関しては以下Wikipediaの記述より (<https://ja.wikipedia.org/wiki/石澤秀二>) :

「東京都出身。早稲田大学卒、同大学院演劇専攻修士課程修了。雑誌「新劇」編集長を経て、1968年の桐朋学園短期大学演劇専攻創設に参加し、教授。同退職後、青年座文芸部長を経て、日本演出者協会副理事長、国際演劇評論家協会日本センター会長を歴任。2005年「祈りの懸け橋-評伝田中千禾夫」で河竹賞受賞。1974-1981年岸田国士戯曲賞選考委員を務めた。妻は劇作家の石沢富子。石沢秀二とも表記する。フランス演劇を中心として演劇全般に関して評論活動をおこなう。舞台芸術財団演劇人会議理事、Beseto演劇祭日本委員会顧問。」

『砂漠の思想』を読む

(3)

II 砂漠の思想

「モンローの逆説」

岩田英哉

このマリリン・モンロー論を読んで思ったことは、一体『砂漠の思想』と題した評論集のうちに、特に「II 砂漠の思想」と題してまとめられた評論のまとまりには何が書かれてあるのかといふことでした。何故かといふと、ここまで読んで来たところによれば、文章の題目は皆映画論であり俳優論であるからです。といふことで、ここで改めて目次を眺めて見ると、それは次のような複数の主題について書かれた文章の全体に「II 砂漠の思想」と名前が付けられ、そしてそれが一卷の評論集の名前になつてゐるのです。この工夫そのものが安部公房らしいことに、topological (位相幾何学的) です。部分が全体になる。特殊の中に普遍がある。個別の中に一般がある。神は細部に宿る。そして、内部と外部が等価交換されてそれが其れではないものに変形する。「II 砂漠の思想」といふ全体を構成する細部の主題の抽象化された目次は次の通り：

- (1) 映画・俳優論
- (2) ミュージカル論
- (3) 記録藝術 (ドキュメンタリー) 論
- (4) 砂漠論

既に見たように (1) の映画・俳優論は、仮説設定論・ニュートラル論でありました。

(2) は今この文章を書いてゐる時点では未読であり不明ですが、舞台藝術としてのミュージカルについての論だと思はれる。またミュージカル映画も論じてゐるかも知れない。(3) はこれまで書いて来た安部公房論によつて、安部公房の記録藝術論 (ドキュメンタリー論) は、超越論でした。この (3) も同様と考へて良い。(4) は映画論でありながら砂漠を主題とした変形論であり、ニュートラル論、即ち二項対立を超克する超越論となつてゐます。といふことは上記 (1) の映画論と同様に (4) の映画論は仮説設定論・ニュートラル論である。とすれば、この場合、これらの論の概念連鎖は次のようになります。

映画論－俳優論－仮説設定論－ニュートラル論－ミュージカル論－記録藝術論 (ドキュメンタリー論) －超越論

これらから論の文字を、超越論を除き、取りはらふと、

映画－俳優－仮説設定－ニュートラル－ミュージカル－記録藝術 (ドキュメンタリー) －超越論

- 1。 1 9 5 7 : 猛獣の心に計算機の手を
- 2。 1 9 6 5 : 砂漠の思想
- 3。 1 9 7 1 : 内なる辺境
- 4。 1 9 9 1 : 死に急ぐ鯨たち

は：<https://www.docdroid.net/FbpWU>

[illegible]

さて、安部公房はマリリン・モンローをこの連鎖の一体どの連鎖関係で論じてゐるかといふと、それは次のやうになります。最後の超越論の文字を赤くすると超越論とは他の連鎖単位の全てを含みますから、これを論外とし、個別マリリン・モンロー論に焦点を当てると次の赤字がさうだといふことになります。

映画－俳優－仮説設定－ニュートラル－ミュージカル－記録藝術（ドキュメンタリー）－超越論

次に、この赤い文字の概念連鎖の中にマリリン・モンローを置くとどうなるかといふことを安部公房は書いてゐる。その結論は次のやうなものです。

- （１）マリリン・モンローは「単なる一つのタイプ」ではない。「タイプとしてのモンローこそ、実は世間の通念だった」のである。
- （２）「むろん、モンローは、モンローを演じ、モンローしか演じられないと、人々に思ひこませることに成功した。」しかし、これは「ハリウッドの商業主義の要求」とは別に、「モンロー一流の文明批評だった」。
- （３）モンローといふ女優には「演ぜられたモンローと、実体としてのモンローのあいだに、つねに可能なかぎりの距離をおくことを忘れなかった」女優である。このやうな女優は、世間が思ふやうな「単なる一つのタイプ」ではない。
- （４）「だから、モンローが肉感的な表現をとればとるほど、そのエロティシズムは、不思議に鋭い批評になってせまってくるのである。」即ち、
- （５）「女性を演じて成功した女優は、いくらもいる。しかし、女性という観念を演じて成功した女優はめったにいない。マリリン・モンローは、そうした数少ない女優の一人だった」。さうして、
- （６）「たとえば、「ナイヤガラ」のモンロー・ウオークや、「七年目の浮気」の、地下鉄通風口でスカートが吹き上げられる場面のような、いかにも彼女らしい典型的なシーンのいくつかを思い出そうとして見ても、そこには注意を集中すればするほど、かえって彼女の実体は、ぼんやり薄れてしまうのだ」といふモンロー像は、まさしくこのまま、その後１９６０年代の初頭（１９６３年）に書くことになる「砂の女」の像である。「砂の女」の前に、まづ「七年目の浮気」の地下鉄通風口でスカートが吹き上げられる場面の写真です。



映画－俳優－仮説設定－ニュートラル－ミュージカル－記録藝術（ドキュメンタリー）－
超越論

もし砂の女が作中歌を歌へば、この連鎖のミュージカルに当たり〔註1〕、二木純平が其れを記録すれば記録藝術（ドキュメンタリー）になり、畢竟『砂の女』といふ物語の最初と最後の間の隙間に存在する物語が差異の中にある以上は〔註2〕、超越論小説『砂の女』の中の女性砂の女は、安部公房の存在論の記号で表せば《砂の女》なのであり、かくして、安部公房にとってマリリン・モンローとは《マリリン・モンロー》であるといふことなのです。

〔註1〕

『砂の女』の第2章の冒頭で砂の女は次の歌を呪文として歌つてゐる：

「ジャブ ジャブ ジャブ ジャブ
何んの音？
鈴の音

ジャブ ジャブ ジャブ ジャブ
何んの音？
鬼の声」
(全集第16巻、156ページ上段)

〔註2〕

もぐら通信第51号：埴谷雄高『安部公房のこと』解題：「7. 安部公房独自の方法論」より、安部公房の超越論的認識と存在論を作品全体の構造化を図るために、即ち作品自体を存在となすためにした工夫について引用します：

「『砂の女』のWikipediaには、次のやうにあります。

「年齢は、本文中、「仁木順平、三十一歳」と書かれているが、最後の「催告」と「審判書」では、「昭和2年3月7日生」（1927年3月7日生）となっており、失踪時の昭和30年（1955年）8月には28歳に当り、矛盾している。」（<https://ja.wikipedia.org/wiki/砂の女>）

これは少しも矛盾ではなく、誠に全ての安部公房の主人公たちと同様に、年齢の差異といふ此のの時間の差異に生きる仁木順平が存在の男であることを示してゐるのです。勿論、砂の穴といふ迷宮の神話の世界、即ち時間の存在しない存在への案内人は、他の安部公房の全ての作品がさうであるやうに、あの「とり逃してしまった」といふ一度失はれた、即ち予（あらかじめ）め失われたニワハンミョウであることは、読者周知の通りです。

この「年齢は、本文中、「仁木順平、三十一歳」と書かれているが、」「昭和2年3月7日生」（1927年3月7日生）となっており、失踪時の昭和30年（1955年）8月には28歳に当」といふ此のテキスト上の事実は、『第四間氷期』の予言計算機や戯曲『友達』や『密会』その他の作品に最後に登場する「明日の新聞」と同じ思想、即ち超越論であることが解ります。何故ならば、話は結末に至つてみれば、実は過去といふ未

来に始まつてをり、未来といふ過去に終わつてゐるからです。即ち、今日は昨日の明日、今日は明日の昨日といふ時間の単位の交換によつて、（即ち始めが終わりに、終わりが始めに回帰するといふtopologyといふ位相に関する幾何学によつて）、年齢の時差といふ時間の差異と、砂の穴の凹といふ形象の窪地の空間の陰画の差異に主人公の男を置いて、安部公房は此の小説を書いたのです。〔註9〕

安部公房の世界認識は、言葉の意味とは差異であり、従ひ、世界は差異である、といふものです。

この世界認識は、そのまま安部公房の苛烈な自己認識です。

この苛烈な自己認識を、安部公房が安部公房スタジオの若い俳優たちに「自分の墓を暴け！」と教へたことを、当時スタジオの俳優であつた御一人から聞いて知ることがありました。

このバロック的な苛烈な自己認識に基づく安部公房の奉天体験と小説作法については、『安部公房の奉天の窓の暗号を解読する～安部公房の数学的能力について～』（もぐら通信第32号及び第33号）に詳述しましたので、これをお読みください。或ひは、今月号の「『赤い蘭』論」をお読み下さつても結構です。

〔註9〕

「最後の「催告」と「審判書」といはれてゐるのは、「失踪に関する届出の催告」と、主人公の失踪の確定した「審判」書（全集第16巻、250ページ）のことである。以下に整理する。

- （1）主人公の行方不明の期間：「七年たち、民法第三十条によつて、けっきょく死亡の認定をうけることになったのである。」：全集第16巻、118ページ
- （2）本文中：主人公は31歳：全集第16巻、159ページ上段
- （3）「最後の」「失踪に関する届出の催告」中：主人公は35歳：「生年月日 昭和二年三月七日」：全集249ページ。（催告書に記載の生年月日である昭和2年は西暦1927年、その発行年月日は「昭和三十七年二月十八日」、昭和37年は1962年である。）

従ひ、（1）と（2）からは、主人公は失踪時38歳、（3）からは35歳となる。」

この世間の通念で成り立つてゐて此れが現実のマリリン・モンローだと錯誤されてゐるマリリン・モンロー像と存在の女優《マリリン・モンロー》との差異を知つて、安部公房曰く「あの、くちびるをすぼめ、肉感にうるんだような、モンロー独特のスチール写真を見て、こみ上げてくる笑いを感じなかったとしたら、それはよほど愚鈍な人間である証拠だ。」モンロー独特のスチール写真とは、これです。



しかし、この写真を見て果たして世の男性諸氏は笑ひがこみ上げて来るものだらうか？安部公房の幾何学的な感性と感覚によれば、間違いなく、このモンローの顔を面の集合としてみてゐるのです。さうだとして、果たして何が面白いものか。さうして見ると、確かに偽の現実に対して、もう一人の贗の現実である自分を演じてゐるモンローであれば、安部公房流に考へてものを見て此处に到れば、確かにマリリン・モンローといふ名前は消えて無名の何か、即ち存在になると感ぜられるのである。さうすると、結局、安部公房の笑ひは、偽現実（社会通念）と贗現実（虚構）の間から生まれて来るのだといふことになる。あら、贗現実と偽現実の間ではないかしら？と、マリリン・モンローの唇が囁いてゐるやうに見える。果たして、現実の安部公房が、このやうな女性を見てニュートラルだと禅僧のやうに観ずることができたかどうかは別である。

これが、トポロジーの洪笑であるならば、安部公房には『あなたにトポロジー的洪笑を一帰属本能への挑戦小説「人間そっくり」』（1967年）といふ短い文章があります（全集第20巻、492ページ）。この文章の最後の箇所には次のやうに書かれてゐました。この『人間そっくり』といふ小説について、

「いま一つ、広告をさせていただければ、それはトポロジー（位相幾何学）理論を小説の中に、それも単に飾りとしてだけではなく、テーマを展開させるための重要な手段として、取入れてみたことでしょう。トポロジー理論を応用してみると、たとえば「日本人とは何か」といった式の本質が、その科学的な解答よりも、しばしば別の動機によって、読者におもねり、媚びているにすぎないことがよく分かります。この思考の解毒剤は、たぶんあなたにも、よき贈り物になってくれるでしょう。現代人に必要なのは、まずトポロジー的な笑いなのだと、ぼくは強く信じているのです。」（原文傍線は傍点）

安部公房がトポロジーといふ数学の名前を表に出して文字にしてゐる作品は、全集の中では、小説を除けば（それも『人間そっくり』だけであり、シナリオの『人間そっくり』では登場しないが）、この短い文章だけです。この時、安部公房は「日本人とは何か」といふ問ひにトポロジーといふ言葉で解答してゐたわけですが〔註3〕、しかし此の問ひに対する答へが作品として、やはりトポロジーの語抜きとはいへ、結実するのは、最後の小説『カンガルー・ノート』を待たねばなりません。

〔註3〕

縄文紀元論（もぐら通信第108号）以降の連載をお読みください。日本民族が習合民族であり、その思考・論理・感情の根源的な哲理がトポロジーであることを古事記冒頭の天地初発の叙述および大祓と身禊祓の文字から読み解いて証明しました。

文壇にも周囲の友人知人にも、多分間違いなく此の理論を真つ向否定した筈の親しき友三島由紀夫を除き、トポロジーを理解する人間はゐなかつたでせうし〔註4〕、それにこれ

は安部公房の「心の部屋」の秘密に直結してみましたから〔註5〕、誰にもいはなかつた。『人間そっくり』についてトポロジーと文字にすると、余程この作品に頼むところがあつたに違ひありません。

〔註4〕

ナンシー・シールズ著『安部公房の劇場』（新潮社。安保大有訳）に次の記述がある：

「わたしが安部の作品で数学的イメージが使われている点に触れた時、安部ははっと驚いた様子であつた。わたしが数学を知っていることが判ったのは、安部にとって「嬉しい不意打ち」であつた。それからわたしたちは、ヘンリー・ミラーとスーザン・ソントグを含む何人かの作家に同じように興味を抱いていることを発見した。安部は、「ぼくは、ソントグは女に嫌われている女だと思う」と評した。そうするうちに、安部はふと萩原の方を向いて、「ナンシーさんはぼくにインタヴューにやって来た他の人とは全然ちがっているね」といった。」（同書19ページ）また、

「安部の純粋数学、とりわけ非ユークリッド模型の研究を伴う位相幾何学に寄せる愛着も、それに劣らず重要であつた。安部のイメージの多くは詩的な数学的観察から生まれており、その観察が、安部の神経を張りつめた精密な調査の下で、思いがけないものの性状を典型的にあばいてみせていた。砂丘のような現象、昆虫、檻、微笑、鞆は、研究され尽くしていた。時空という抽象概念は、何にもまして安部の心を占領していた。安部はそういう抽象概念を量子物理学者のように熟考していた。（以下『燃えつきた地図』の主人公の意識を例に挙げて小説より引用し、その意識の一般性を述べてみて読むに値するが此处では省略する）」（同書22ページ）

〔註5〕

初期安部公房が当時の親しき哲学談義の友中埜肇宛の手紙に次の箇所がある：

「中埜君、どうかどんな時にでも僕達の心が君の心に接してある事を想出して下さい。君がどんなに苦しく想つても、どんなに苦しく想つても、君の心の部屋のほんの角つこに、小さく君をみつめて居る眼のある事を忘れないで下さい。そして時々はその部屋の中で深呼吸する事。其の中で僕達は永遠に語り合ふ事も出来るのぢやないでせうか。」（全集第1巻、79ページ下段）

安部公房の演技論の中核概念ニュートラルとは「一種の合言葉であり、どんな他者の心の扉でも自由に通過できる」空間を、19歳の安部公房は「心の部屋」と呼んだ。成城高校時代に親しく哲学談義を交はした友中埜肇宛の手紙はこれを示してゐる。この時中埜肇は京都大学哲学科に入学のため京都にゐる。当時の成城高校の文学と哲学の会を安部公房は主催してゐて、中埜肇も仲間の一人であつたのでせう、上の引用の中で「僕達の心」と一人称複数形で呼んでゐるのが、その事です。

結局、安部公房の叙述する、安部公房スタジオの俳優たちにあるべき理想の姿として説明する死刑囚の姿は一体何をしてゐる人間かと云へば、それは自分の死、即ち時間の終はりが決定的である状態に今自分がゐることを承知の上で、その時間を空間化することである。時間の変化を空間的な関係の変化、即ち函数関係に変形することです。これが「人間が人間であることを証明するため」になすべきことであり、これがニュートラルな行為の在り方なのであり、ニュートラルとは「一種の合言葉であり、どんな他者の心の扉でも自由に通過できる、パスポートなのである。」〔註5-1〕何故なら「ミクロの世界では、空間的なものに翻訳されないかぎり、時間は無いにひとしいのである」から。安部公房はリルケのやうに小さいものを愛する。

「小さなものを見つめていると、生きていてもいいと思う。

雨のしずく……濡れてちぢんだ革の手袋……

大きすぎるものを眺めていると、死んでしまいたくなる。

国会議事堂だとか、世界地図だとか……」

(『箱男』全集第24巻、109ページ)

[註5-1]

この段落の鉤括弧内の引用は全て「再び肉体表現における、ニュートラルなものの持つ意味について。」と題した「周辺飛行18」よりの引用である(全集第24巻、148ページ上段)。

ネット・メディア論 (8)

岩田英哉

目次

- 0。はじめに
- 1。国家とは何か
- 2。用語の定義
- 3。メディアとは何か
 - 3.1 マス・メディアとは何か（20世紀）
 - 3.1.1 世界観としてのマス・メディア（一神教のtopology）
 - 3.1.2 マス（mass）とは何か
 - 3.1.3 マスとプロパガンダ
 - 3.1.4 マス・メディアとプロパガンダ
 - 3.1.5 1945年までの日本国家と1945年以後の日本国家の関係
 - 3.1.6 マス・ジャーナリズムとは何か
 - 3.2 ネット・メディアとは何か（21世紀）
 - 3.2.1 世界観としてのネット・メディア（超越論のtopology）
 - 3.2.2 ネットとは何か
 - 3.2.3 ネットとプロパガンダ
 - 3.2.4 ネット・メディアとプロパガンダ
 - 3.2.5 ネット・ジャーナリズムとは何か
- 4。ネット・モナド論
 - 4.1 モナドの概念と定義
 - 4.2 ネット・モナドの概念
 - 4.3 ネット・モナド(personal)の定義
 - 4.4 日本国の位相史上のネット・モナドの位置
 - 4.5 ネット・モナドの対象とする監視・調査項目
 - 4.6 Topologyで右翼と左翼の関係を明確にする
- 5 公私とは何か
 - 5.1 公私の最小単位
 - 5.2 マス・メディアでの公私とは何か：一神教の公私
 - 5.3 ネット・メディアでの公私とは何か：超越論（汎神論的存在論）の公私
- 6。二階層戦争論とメディア論の関係
 - 6.1 ネット・メディアの問題を二階層戦争論で考察する
 - 6.2 ネット・ヘゲモニー問題とは何か
 - 6.3 二階層戦争論による解決策
- 7。政治形態と自由
 - 7.1 自由とは何か：私たちの自由およびlibertyとfreedomの違い
 - 7.2 公私の最小単位再説
 - 7.3 政治形態E&Aの公私：一神教のtopologyの政治形態
 - 7.4 政治形態Jの公私：高天原のtopology（超越論）の政治形態
- 8。私たちは如何に生きるべきか
 - 8.0 オウム真理教とは一体何であつたか
 - 8.1 学歴無用論：盛田昭夫著『学歴無用論』
 - 8.2 学問有用論：福沢諭吉著『学問のすすめ』
 - 8.3 グローカリストとしての千利休（令和時代の人間像）

青字は既論の章、赤字
は今回論ずる章、黒字
はこれから論じる章



縄文紀元論

Topologyで日本人を読み解く（7）

Intermezzo 2

海風之大刀（アマナギ・ノ・タチ）は一体どんな姿をしてゐるのか

岩田英哉

目次

I 縄文紀元日本語論

1. 日本語と漢語の関係

- (1) 言葉と概念と文字の関係
- (2) 音義と日本語の概念の関係
- (3) 漢字とひらかな・カタカナの関係
- (4) 音義と五十音表の関係
- (5) 有文字文明と無文字文明

Intermezzo：何故日本にはキリスト教徒が全人口の1%しかゐるのか？

- 2. 日本語の音義と概念の関係：五十音表とは何か
- 3. 五十音表を記号化する
- 4. 日本人の言語宇宙
- 5. 古事記の宇宙観
 - 5.1 高天原とは何か1
 - 5.2 カミとは何か1
 - 5.3 高天原とは何か2
 - 5.4 日本語の特殊の中の普遍
 - 5.5 海の民のお祭りと超越論の関係
 - 5.6 天照大神とは何か
 - 5.7 月読命とは何か
 - 5.7.1 月とは何か
 - 5.7.2 月読命とは何か
 - 5.7.3 月読神社とは何か
 - 5.7.4 ヤシロとは何か
 - 5.7.5 「鹿座神影図」を読み解く
 - 5.7.6 磐座と注連縄の関係
 - 5.7.7 亀の甲羅とは何か
 - 5.7.8 習合とは何か
 - 5.8 カタカナとひらかなの関係

Intermezzo 2：海風之大刀（アマナギ・ノ・タチ）は一体どんな姿をしてゐるのか

- 5.9 ダイダラボッチと巨人伝説：大倭日高見国と播磨国
- 5.10 日本人はどこから来たか

II Topologyで縄文土器を読み解く

- 0. 縄文土器の本当の名前は何か
- 1. 紋様とは何か
- 2. 縄文土器の構成要素
- 3. 縄紋は縄目と渦巻き紋様で出来てゐる
- 4. 縄文土器は三階層で出来てゐる
- 5. 縄文土器には開口土器と閉口土器の二種類がある
- 6. 縄文土器は私たちの宇宙観を体現してゐる
- 7. メディア（媒体）としての縄文土器
- 8. 弥生式土器は二階層で出来てゐる
- 9. メディア（媒体）としての弥生式土器
- 10. 縄文土器と弥生式土器の関係（topologicalな連続性）：3（奇数）から2（偶数）へ
 - 11. 銅鐸は7階層で出来てゐる
 - 12. 縄文土器の政治と弥生式土器の政治：土器と政治の一体と分離：銅鐸とは何か1
 - 13. 縄文土器の経済と弥生式土器の経済：土器と経済の一体と分離：銅鐸とは何か2

IV 21世紀の現代に縄文土器はどのように生きてゐるか

VII 20世紀の幕を閉じ、21世紀に生きるための結語

青字は既論の章、赤字
は今回論ずる章、黒字
はこれから論じる章

問：海風之大刀（アマナギ・ノ・タチ）は一体どんな姿形をしてゐるのでしょうか？

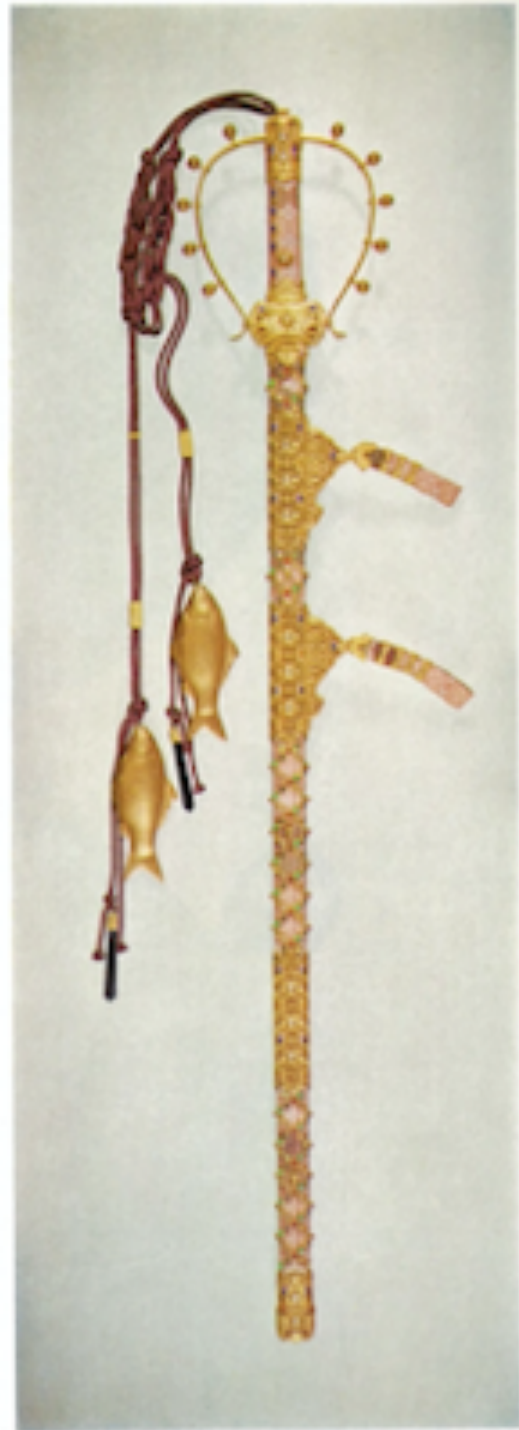
答：これがアマナギ・ノ・タチ（海風之大刀）ではないかと思はれます。これを対称性を保つたまま位相を転じて海（あま）から地（つち）の上で変形させたものが草薙剣です。この神宝は伊勢神宮に奉納されてゐるものです。『神道考古学講座 第四巻 歴史神道期』（口絵）より引用します。

第一図

須賀利大刀



玉纏大刀

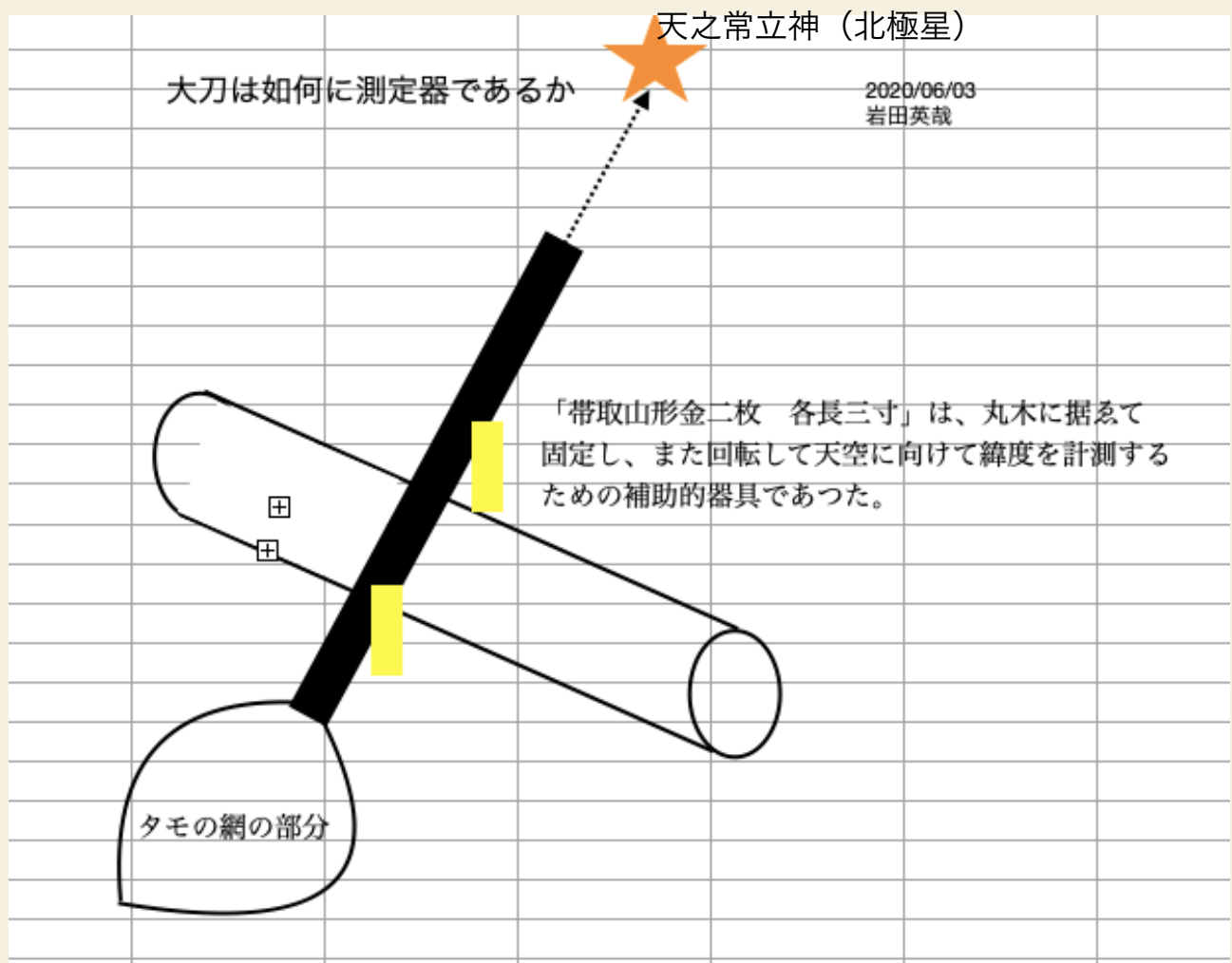


問：これは一体何でせうか？

答：これは、このまま虚心坦懐に其の姿を眺めれば、明らかに魚を獲る際に使ふタモです。そして、何故なら、魚があしらはれてゐるから〔註1〕、尚更さうなります。即ち、これが日本刀の起源でありませうから、大陸の剣・刀の類と違つて、日本のタチ（立ち・大刀）はタモの変形したものである。といふことになります。大陸の太刀は人を殺めるために、私たちの大刀（立ち）は魚を獲る際に捕獲を補助するための道具とし使ふために、このやうに目的が異なつてゐたといふことです。

問：これがタチ（立ち・大刀）ならば、これはそのまま三種の神器の一つである緯度測定器にほかなりませんので、太古海の民は此れを使つて緯度を測定したといふことになりますが、果たして如何。

答：確かにさういふ理屈になり、解釈になります。その緯度測定器の名残が、ともに主たる長柄の先端についてゐる円環状の金具と、それから其のそばにまた長柄に二つ付いてゐる、延喜式によれば「帶取山形金二枚 各長三寸」といふのが、これに当たると思はれます。しかし、これは果たして腰に帯びるだけのための工夫であつたかといふと、さうではなく、もし緯度を測定する器具だとすると、このやうな使ひ方がなされたと、これは私の想像ですが、考えることができます。



そして、緯度を測るためには海は風で薙（な）いでゐなければならず、船も上下左右の揺れ無く静止してゐなければなりません。それ故に、地にあつては草薙大刀と呼ばれ、海にあつては海風（または薙ぎ）の大刀と呼ばれ得る。このやうに考へれば、風の文字ではさうは行かないが、薙の文字は両用できます。これで何故三種の神器の一つの草薙剣の呼び名と文字に、このナギ（風・薙）がついてゐるのか、海の民は海の波をかく平らかにするためにナギ（風ぎ・和ぎ）、他方、地（つち）の民のタチは、草を薙いで地を平らかにし、治めるためにナグ（薙ぐ・和ぐ）。

〔註1〕

この二匹の魚が果たして海のものかどうかを判定しなければなりません。わたしは海のものと考えますが、この魚の姿が果たしてそれほどの特殊特定の姿として考察に耐え得るものかどうか。延喜式では当時の人は「金鰺形二隻」と呼んでゐますので、これは川魚ではないことは承知の上で、この形の魚をフナとしてゐる。鰺ならば湖沼の魚で、ヤマト（山門）のある地域の朝廷としてはさうかも知れないが、ミナト（海門）の朝廷としては（と便宜上仮に大倭日高見国の政權中枢を朝廷と此処では呼んで措くことにしますが、何故ならスメラ・ミコトがゐますから）やはり海の魚なれば、この種の形の魚を象つたとわたしは思ひたいところです。何故なら、さうであればこそ、アマナギノタチの語義由来由縁の説明が可能であるからです。あるひは実際の証明の理屈の順序は逆でありませうけれども。まあ、この典拠の書物が「歴史神道期」とあり、これは文字に書かれて資料のある時期以降の話を対象にしてゐますので、その時代の資料に依りますので、これは致し方のないところです。

以上の説明の由つて来たる資料である同著からの、延喜式にある説明を転載します。二つの大刀にならひ、それぞれ書中「玉纏御太刀」「須賀利御太刀」と（この太刀の文字で）呼ばれてゐます（太刀とあつて第一図の表記と異なるが、これまで考察して来たところにより第一図の大刀の表記が正しい）。魚の名前と帯に佩（は）く部分の文字には、それぞれ赤と青い色の傍線を付してあります。

玉纏御太刀

内宮の神宝中最も華麗で第一に挙げられる品である。古く延暦の儀式帳にみえ、延喜式ではその形状寸法等が詳細に記されている。少し繁にわたるがその形制を知る基本的なものであるから次に述べる。

玉纏横刀一柄 柄頭横着銅塗金。長三寸八分、片一寸五分。頭頂着朴銀一勾。三寸。四圍着五色玉。著五色組長一丈、阿志須恵組四尺。柄着勾金二長二尺、片一寸八分。金銀形一隻、二寸五分。廣着錯紫組長六尺。袋一口。廣着錯紫組長七尺。これが「長曆送官符」になるとかなりの相違が見られる。すなわち

ジン（糸片に盡
（尽）・帯取料錦二条
とあるので、これが太刀を身に佩くための部分かと推察する。条とあるので、これは下りと読むのでやはり腰に下げたものと解するが如何か。

金鮒型二隻

玉纏太刀一柄 柄長七寸。用赤木・柄長三尺六寸。並黒漆打出金銀平文。身長三尺五寸。以五色吹玉三百九。四面隨玉色點裏玉。柄着錯紫組金口寄金一枚。重着紫金一枚。身在口裏。金玉形通釘一隻。表裏位金目貫金一隻。表裏位金着錯紫組九。錯紫組加流金二。志波利金一口。頭可布土金一枚。錯紫組釘五隻。各表裏位金。琥珀玉三。錯金物口金二重。帶取山形金二枚。各長三寸。可部留保并錯付金等。志波利金一枚。福尻金一枚。已上皆銅。金銀形一隻。長各六寸。廣二寸五分。以紫小組着。長六尺。已上錯紫組一。長五尺八寸。

とあるが、細部においてかなりの相違を示し、柄ならびに鞘に赤木を使用し、黒漆で打出金銀平文があるとか、五色の吹玉三百九を玉筒（タマゲ）玉を据える座に貼り着けたり、錯紫や須加流金・志波利金・可布土金等の記載があるが、ここで注目しなければならないのは式にある柄頭の梯形金具と勾金のみえないことである。勾金については嘉元寛正官符や、応永絵巻物注文に輪金一九とあるし、近世から現在のものにも着装されており、本刀の一特徴となっているので、あるいはここでは脱漏ともみられるが、柄頭の金具については後の記録には全くこれを欠きもちろん現在も残っていない。この点については早く後藤守一氏が指摘していた点で本刀の起源を考慮する上に重要な一要素となっているが、後に触れることとする。

さて次に本刀の変遷について見ると、まず実物としては先に記した内宮々城発掘品（現在重要文化財）と、前田育徳会所蔵の神宝図がある。前者については『国華餘芳』にも記されており（第1図）重文指定の際欠失部を補ない修理を施したが、もとは柄鞘ともに木地は朽損し、刀身も錯損していた。現在総長一一五センチ、錯金具は金銅で、背金をはじめ錯・口金・鐔・勾金・足金物・鐔が残り、主な金具には小錯をとり地に魚子を打ち唐草文の線彫を施す。勾金は一丸で円形長三二センチ、初めは一〇個の金銅鈴を付していた（現存三個）。刀身は長八八・三センチで若干の反りを有つ。刀身の一部に瑠璃玉散顆を貫いた玉纏の一部が残っている。製作年代は金物の形状や文様の特徴からみて南北朝頃の調進と考えられている（文化庁における古神宝類の調査による）。

後者前田家蔵の同図は金具の細部において若干の相違が見られるが、勾金はほぼ円形で鈴十口を着けている（同図の

現代の本刀の制を明治四十二年度調進で昭和四年に撤下されたものとみると（口絵1図）、身は直刀で平棟・両切刃作・鐔子（かますきつさき）となり、総長三尺六寸（一〇九センチ）。拵（こしらえ）は柄鞘ともに赤木作で錦裏（にしきつつみ）とし、鐔は桑（しとぎ）鐔、背金を始め鑑（はばき）・鐔・山形・貴・鑑等の金具は金銅でかつ唐草文が施され、鞘には麒麟の居金物（すえかなもの）を置き、柄と鞘とを通じ、水精・琥珀・五色の瑠璃等の大小の色玉三〇〇余がちりばめられる。玉繩御太刀の名はこれに基づくことはいまでもない。柄長七寸五分（二二七センチ）、鞘長三尺七寸（一一二センチ）。さらに他にみない特色は柄頭の背金から鐔の上下に金銅輪金（勾金）一丸を架していることで、この輪金の形状は現在では卵形となっており、これに一〇個の金銅鈴が付くが、延喜式には鈴八口、琥珀玉二枚となっており、寛正の官符には鈴一〇個となり、さらに『国華餘芳』所載の発掘品も同様である。次に柄頭から垂れた懸緒（かけお）の先端には金銅鐙形二個が付くが、これは後世の露金物に当る所で、他に類をみないが、中国の魚符から転じたものであろう。なお帯取緒は紫白の綾組から成る新羅組で、付属の平緒も縹色の新羅組に孔雀丸文と鸚鵡丸文とを刺繍する。長一尺一寸（三三・三センチ）、幅四寸（一二センチ）である。

須賀利御太刀

同じく皇大神宮の神宝中、前者につぐ華麗な品として著聞している。これも早く儀式帳にみえ、延喜式には次の説明が述べられる。

須我流横刀一柄 柄長六寸、背金三尺、其面金 柄勾皮長一尺四寸。裏小量調錦 一押鏡形六枚。柄一枚押小量調錦長三寸一分。四角立乳 形 著五色ノ組。長一丈。阿志須恵組四尺。金ノ鐙形一隻長六寸、広二寸五分。著紫組長六尺。袋一口袋大長四尺、裏錦

これを「長曆送官符」に徴すると、次のとおりとなる。

須我利太刀一柄、柄長六寸。用赤木。身長三尺。鞘長三尺一寸。並黒漆平文。皆銅金物。以金銀。以三掛糸二纏付。鴛羽柄金物。除玉鐙之外皆同玉繩大刀。鞘金物口金二重。帯取金二枚。各在之。三筋志波利金一枚。諸唐組二条。長一丈五尺。広四寸五分。帯取同唐組二条。長一尺六寸。広六分。志波利加久皮端金皆同玉繩大刀。但鞘着鈴八口金鐙形二隻。長六寸広二寸五分。以紫小組着。長六尺。已上納袋一口 袋長五尺

上図二つのうちの右の図「玉纏御太刀」については「『国華餘芳』にも記されており（第一図）重文指定の際欠失部を補い修理を施したが、もとは柄鞘ともに木地は朽損し、刀身も錆損していた。現在総長一一五センチ、総金具は金銅で、冑金をはじめ縁・口金・勾金・足金物・鐙（とう）が残り、主な金具には小縁をとり魚子を打ち唐草文の線彫を施す。」とありますので（同書207ページ）、写真ではよく見えませんが、この「魚子を打ち」といふ事実がそのまま文字通りに魚の子、即ち小さな形をした魚の形を打つたといふ意味であるならば、このIntermezzo2の章での論旨は正しいものと考えられます。

あるひは、これがタモではなく、第一の習合を経たならば釣竿としての竹竿であつたと云ふ（可能性では無く）蓋然性も十分にあると思ひます（あるひは最初から南太平洋の島々に竹は生えてゐるものであれば尚更）。そして、もし縄文人の発明家がゐたら、竿とタモを一緒にした釣竿を発明したかも知れないと想像することは楽しい。そうして、それが同時に緯度測定器でもあつた。となれば、これはやはり神器であり、緯度測定に際して祓詞を唱へたと考へて間違ひがないと私には思はれるのです。

このやうな大刀の由来から言つて、日本刀は人を切るための刀ではそもそもなく、さうではなくて、さうではないどころか、星の位置から自らカコ（水主・水手）としてゐる現在の位置を風（ナギ）の海上にあつて船も我も静止して測定するといふ目的のためのタチでありますから、地（ツチ）の位相にて相対する剣士といふものも互に相手を規準・クライテリアの恒星（天之常立神）と見立てて自らの位置を測り、彼我の関係を測定して知るためにタチを構へるものではないのでせうか。間合ひを測つたり、呼吸を測つたり、といふやうに。恐らくは、その構へをお互ひに見て、人品骨柄も実力の程も測つたことでありませう。

さうしてみれば、剣道と云ふミチ（御・命/遲）に修練するに当たり、何故竹刀といふ竹で出来た木を割（さ）いて大刀と見立てて構へ、相対するののかの謎が解けようと云ふものです。相手は遙か天上の夜空に輝く星であり、我は地に立ち星を仰ぎ見るヒトである。とすれば、自然に礼儀作法も生まれ、日本人の創造した剣道以下の武道を初め、華道も茶道もみなミチと云ふ名前に道（タオ）と云ふ漢字を当てて二重構造に写した此の心がよくわかるのではありませんか？そして、何よりも歌道です。和歌は、此れも既述の通り、高天原に歌ふ片端から奉納される（アメリカ人ならばこれを著作権の発生といふだらう）。

このやうに水主・水手（カコ）が、安曇野の舟祭りに出る天磐船で其の上に立つカコたちが侍の姿をしてゐるといふことは、私たちの文明の真実の成り行きを示して、信じ難いことに、21世紀の今日に伝へてゐるのではないでせうか。もしあの天磐船の上で執り行はれる儀式があるならば知りたいものです。それは太古に海の民が船の上で緯度を測つた儀式にほかならないでありませうから、それを現に今其処に（磐座の上に）位相を転移して写してゐる筈です。

この『縄文紀元論』を此処まで書いて参りますと、日本文明といふ文明は此の日本列島のみに存在してゐる、地球上古今未曾有、空前絶後の文明であると、しみじみと、思はざるを得ないのです。私たちは日本語と、私たちの風儀を大切にしなければなりません。風儀の中には民俗も習俗も自ずと、日常生活の中に自然に、含まれてゐます。

更に思へば、わたしが大学に入つてドイツ文学を専攻すると、ドイツからやつて来た複数のドイツ人に出逢ふことになり、一体何をしに遥々と日本に来たのかと目的を尋ねると、Japanologie（ヤパノロジー）、即ち和訳すれば日本学を本国で専攻し、日本にやつて来たのであるといふのです。この時わたしは初めて日本学といふ学問の名前をドイツ人から教はりましたが、日本にはそんな学問はない。あるのは国文学であり、18世紀の本居宣長に始まる国学である。彼らのいふところを聞いてみると、どうやら日本文学が主たる対象であるらしかった。本当に日本語がよくできて、今でも印象に残つてゐるのは、態度は尊大であつたがしかし万葉集の和歌を数々暗唱してゐて日本人に聞かせてみせた背丈の小さなドイツ人のことを思ひ出す（あなたたちは日本人なのに万葉集の歌も暗唱できてゐないのかと流暢な日本語でいはれて慥然としたことを憶えてゐる）。また、ある若い女性は、日本語そのものを研究の対象にしてゐて、（日本人すら行けといはれて嫌々行く）義務教育の学校で教はらぬカタカタの本質論に関する論文を書いたのだといふ。わたしは元々国文学を学ぼうと思つてゐたので、これらドイツ人による日本学の名前と発揮して見せた能力には驚いたのです。

さて、そして、このやうにわたしが縷々書き連ねて来たところは、恐らくは徹頭徹尾言語の立場から論ぜられた日本学（Japanologie：ヤパノロジー）、英語ならば Japanology（ジャパノロジー）といふ名前に相当する学（やはり此処では由緒正しく語源正しいドイツ語を使はずにはゐられない其の）die Wissenschaft（ディ・ヴィッセンシャフト）―知識の体系と云ふが本義の抽象名詞―であるといふことに、此処まで来て気づいたので備忘として書き留めて置きたい。そして、わたしの文化の定義はあくまでも、どこまで行つても尽きることなく、どの民族のどの言語であらうとも、

文化とは言葉を正しく使ふことである

といふに尽きるのです。

5.9 ダイダラボッチと巨人伝説：大倭日高見国と播磨国

（次号に続く）

Topologyで日本の文化を解説する
「内なる境界」シリーズ
(10)
扇

岩田英哉



連載物・単発物次回以降予定一覧

- (1) 安部浅吉のエッセイ
- (2) もぐら感覚23：概念の古塔と問題下降
- (3) 存在の中での師、石川淳
- (4) 安部公房と成城高等学校（連載第8回）：成城高等学校の教授たち
- (5) 存在とは何か～安部公房をより良く理解するために～（連載第5回）：安部公房の汎神論的存在論
- (6) 安部公房文学サーカス論
- (7) リルケの『形象詩集』を読む（連載第15回）：『殉教の女たち』
- (8) 奉天の窓から日本の文化を眺める（6）：折り紙
- (9) 言葉の眼12
- (10) 安部公房の読者のための村上春樹論（下）
- (11) 安部公房と寺山修司を論ずるための素描（4）
- (12) 安部公房の作品論（作品別の論考）
- (13) 安部公房のエッセイを読む（1）
- (14) 安部公房の生け花論
- (15) 奉天の窓から葛飾北斎の絵を眺める
- (16) 安部公房の象徴学：「新象徴主義哲学」（「再帰哲学」）入門
- (17) 安部公房の論理学～冒頭共有と結末共有の論理について～
- (18) バロックとは何か～安部公房をより良くより深く理解するために～
- (19) 詩集『没我の地平』と詩集『無名詩集』～安部公房の定立した問題とは何か～＊
- (20) 安部公房の詩を読む
- (21) 「問題下降」論と新象徴主義哲学
- (22) 安部公房の書簡を読む
- (23) 安部公房の食卓
- (24) 安部公房の存在の部屋とライブニッツのモナド論：窓のある部屋と窓のない部屋
- (25) 安部公房の女性の読者のための超越論
- (26) 安部公房全集未収録作品
- (27) 安部公房と本居宣長の言語機能論
- (28) 安部公房と源氏物語の物語論：仮説設定の文学
- (29) 安部公房と近松門左衛門：安部公房と浄瑠璃の道行き
- (30) 安部公房と古代の神々：伊弉冉伊弉諾の神と大国主命
- (31) 安部公房と世阿弥の演技論：ニュートラルといふ概念と『花鏡』の演技論
- (32) リルケの『オルフェウスへのソネット』を読む
- (33) 言語の再帰性とは何か～安部公房をよりよく理解するために～
- (34) 安部公房のハイデッガー理解はどのやうなものか
- (35) 安部公房のニーチェ理解はどのやうなものか
- (36) 安部公房のマルクス主義理解はどのやうなものか
- (37) 『さまざまな父』論～何故父は「さまざま」なのか～
- (38) 『箱男』論II：『箱男』をtopologyで解説する
- (39) 安部公房の超越論で禅の公案集『無門関』を解く
- (40) 語学が苦手だと自称し公言する安部公房が何故わざわざ翻訳したのか？：『写真屋と哲学者』と『ダム・ウエーター』
- (41) 安部公房がリルケに学んだ「空白の論理」の日本語と日本文化上の意義について：大国主命や源氏物語の雲隠の巻または隠れるといふことについて
- (42) 安部公房の超越論
- (43) 安部公房とバロック哲学
 - ① 安部公房とデカルト：cogito ergo sum
 - ② 安部公房とライブニッツ：汎神論的存在論
 - ③ 安部公房とジャック・デリダ：郵便的（postal）意思疎通と差異
 - ④ 安部公房とジル・ドゥルーズ：褻といふ差異
 - ⑤ 安部公房とハラルド・ヴァインリッヒ：バロックの話法
- (44) 安部公房と高橋虫麻呂：偏奇な二人（strangers in the night）
- (45) 安部公房とバロック文学
- (46) 安部公房の記号論：《 》 〈 〉 () [] 「 」 『 』 「……」
- (47) 安部公房とパスカル・キニャール：二十世紀のバロック小説（1）
- (48) 安部公房とロブ＝グリエ：二十世紀のバロック小説（2）

- (49) 『密会』論
- (50) 安部公房とSF/FSと房公保安：SF文学バロック論
- (51) 『方舟さくら丸』論
- (52) 『カンガルー・ノート』論（済み）
- (53) 『燃えつきた地図』と『幻想都市のトポロジー』：安部公房とロブ＝グリエ
- (54) 言語とは何か II（済み）
- (55) エピチャム語文法（初級篇）
- (56) エピチャム語文法（中級篇）
- (57) エピチャム語文法（上級篇）
- (58) 二十一世紀のバロック論
- (59) 安部公房全集全30巻読み方ガイドブック
- (60) 安部公房なりきりマニュアル（初級篇）：小説とは何か
- (61) 安部公房なりきりマニュアル（中級篇）：自分の小説を書いてみる
- (62) 安部公房なりきりマニュアル（上級篇）：安部公房級の自分の小説を書く
- (63) 安部公房とグノーシス派：天使・悪魔論～『悪魔ドゥベモウ』から『スプーン曲げの少年』まで
- (64) 詩的な、余りに詩的な：安部公房と芥川龍之介の共有する小説観（済み）
- (65) 安部公房の/と音楽：奉天の音楽会
- (66) 『方舟さくら丸』の図像学（イコノロジー）
- (67) 言語貨幣論：汎神論的存在論からみた貨幣の本質：貨幣とは何か？
- (68) 言語経済形態論：汎神論的存在論からみた経済の本質：経済とは何か？
- (69) 言語政治形態論：汎神論的存在論からみた政治の本質：政治とは何か？
- (70) Topologyで神道を読む（1）：祓詞と祝詞と結界のtopology
- (71) Topologyで神道を読む（2）：結び・畳み・包みのtopology

[シャーマン安部公房の神道講座：topologyで読み解く日本人の世界観]

- (71) 超越論と神道（1）：言語と言霊
- (72) 超越論と神道（2）：現存在（ダーザイン）と中今（なかいま）
- (73) 超越論と神道（3）：topologyと座霊（むすひ）または結び
- (74) 超越論と神道（4）：ニュートラルと御祓ひ（をはらひ）
- (75) 超越論と神道（5）：呪文と祓ひ・鎮魂
- (76) 超越論と神道（6）：存在（ザイン）と御成り
- (77) 超越論と神道（7）：案内人と審神者（さには）
- (78) 超越論と神道（8）：時間の断層と分け御霊（わけみたま）
- (79) 超越論と神道（9）：中臣神道の祓詞（はらひことば）をtopologyで読み解く：
古神道の世界観
- (80) 三島由紀夫の世界観と古神道・神道の世界観の類似と同一
- (81) 安部公房の世界観と古神道・神道の世界観の類似と同一
- (82) 『夢野乃鹿』論：三島由紀夫の「転身」と安部公房の「転身」
- (83) バロック小説としての『S・カルマ氏の犯罪』
- (84) 安部公房とチョムスキー
- (85) 三島由紀夫のドイツ文学講座
- (86) 安部公房のドイツ文学講座
- (87) 三島由紀夫のドイツ哲学講座
- (88) 安部公房のドイツ哲学講座
- (89) 火星人特派員日本見聞録
- (90) 超越論（汎神論的存在論）で縄文時代を読み解く
- (91) 「『使者』vs.『人間そっくり』」論

編集後記

- 巻頭詩（４）：フェルナンデス：石原吉郎：日本の詩人たちと交流のあつた時に読んで印象の深い詩の一つです。この詩人はシベリアに抑留され辛酸を舐めた。その記録はまた凄絶です。それを経験した後に生まれた此の詩です。味読されたい。
- 全集未収録作品：シナリオ『億萬長者』生原稿 分載（２／４）映画評論1954.8月号：安部公房他：引き続き、これも、味読下さい。
- 『周辺飛行』論（２８）：３。『周辺飛行』について（２１）：鴈魚のエピソード——周辺飛行２４：これも遂にといふべき安部公房論になりました。しかし、言語に関する特に日本語に関する関心の深さは最晩年に至るまで変はらなかつた安部公房の姿があります。公房再発見といふところですか。これを舞台で演劇の世界で実現しようといふのですから、誰もしたことのない試みです。これを前衛といふのではないか？主義主張にそつて言葉も振る舞ひもただなぞつてゐるやうな人間は前衛ではない。
- 『砂漠の思想』を読む（３）：モンローの逆説：確かにモンローのやうなタイプは安部公房の好みの女性ではないので、こんなエッセイが書けるのでせう。安部公房の好みの女性はやはりボーイッシュで少年見たいで成熟してゐて成熟してゐなくて、そして気が強くて、といふ前半２０年は真知夫人、後半２０年は山口果林のやうな女性でありませう。
- ネット・メディア論（８）：６。二階層戦争論とメディア論の関係：休筆御免。ページ数が良い枚数になったので次号です。
- 縄文紀元論：Topologyで日本人を読み解く（７）：Intermezzo 2：海風之大刀（アマナギ・ノ・タチ）は一体どんな姿をしてゐるのか：全く伊勢神宮にこの大刀があるとは、日本の歴史は実に太古に遡ると面白いものでござる。
- Topologyで日本の文化を解説する「内なる辺境」シリーズ（１０）：扇：待て次号。これもページ数が良い枚数になったので次号です。
- では、また、次号にて、

差出人：

鴈安部公房

〒182-0003東京都調布市若葉町「閉ざされた無限」

次号の原稿締切は超越論的にありません。いつでもご寄稿をお待ちしています。

次号の予告

- １．『周辺飛行』論（２９）
- ２．縄文紀元論（７）
- ３．私の本棚：西尾幹二著『あなたは自由か』を読む～自由と奴隷について～
- ４．哲学の問題１０１（１１）：愛（Liebe：リーベ）
- ５．大久保房雄を読む（１）：文壇とは何であつたか
- ６．サンチョ・パンサを求めて（８）：ドーナツの穴になつた話

もぐら通信の収蔵機関】

国立国会図書館、コロンビア大学東アジア図書館、「何處にも無い圖書館」

【もぐら通信の編集方針】

1. もぐら通信は、安部公房ファンの参集と交歓の場を提供し、その手助けや下働きをすることを通して、そこに喜びを見出すものです。
2. もぐら通信は、安部公房という人間とその思想及びその作品の意義と価値を広く知ってもらうように努め、その共有を喜びとするものです。
3. もぐら通信は、安部公房に関する新しい知見の発見に努め、それを広く紹介し、その共有を喜びとするものです。
4. 編集子自身が楽しんで、遊び心を以て、もぐら通信の編集及び発行を行うものです。

